

the
REFORMATION
herald

Vol. 61, No. 6



IT'S TIME

2020年末祈禱週「今がその時」

2020年12月4日－12月13日

The Reformation Herald

Volume 61, Number 6

今がその時

祈祷週2020年12月4日-13日

編集記

今がその時 3

自分の救い主を知るべき時

わたしたちは体験的な知識によって、神と神の愛の力を、キリストのうちに表された通りに知る必要がある 4

新たに生まれるべき時

男女は天の恵みによってやわらかくやさしくされている新しい心を受けなければならない..... 8

真の改革者となるべき時

わたしたちの時代には、イエスによって変えられた生涯の結果として神の戒めに従うことが、ますますまれになっている 12

自分が信じていることを知るべき時

だれが世に真理のメッセージを伝える御使に加わるだろうか? 18

健康になって、世を癒すべき時

わたしたちは神がわたしたちに与えて下さった健康改革の進んだ原則によって、世に代表されるべきである 22

活発な伝道者となるべき時

福音を広めるために今日のコミュニケーションツールを用いる便益を否定するわけにはいかない 26

終わりの出来事のために準備すべき時...

キリストが来られるしるしを見るとき、真理を告白するすべての者は生きた説教者になるべきである 30

時は来た

時の召し—わたしたちの独特な使命—詩 36

今年、本当に大変な年でした。多くの人々が過酷な試練と重大な損失を負いました。しかし、そのような多大な試練にもかかわらず、天の偉大な全能者—全宇宙の君主—であるお方が、やさしく嘆くすべての人を見守っておられることをわたしたちは心に留めている必要があります。地上に生存しているわたしたちには、なお、多くの感謝をすべきことがあり、特にイエス・キリストの無限の恵みによる永遠の命の約束に感謝をすべきです。

今年の読み物のタイトルは「**今がその時** . . .」です。この読み物は、わたしたちを鼓舞し、この地上で神がわたしたちのために持つておられる明確な目的を思い起こさせる一連の主題を網羅しています。わたしたち一人一人は、明確な理由があつてなおここにいますのであり、主のみ事業に熱心になるようにと召され—実際には強く促され—ています。

各自、深く祈りをもって、今年の祈祷週の読み物について考えましょう。また、遠隔地にいたり、家の外にできることができない人々とこの読み物を共有し、以下の日程を心に留めましょう。

断食と祈りの日: 12月12日安息日

伝道献金: 12月13日日曜日

聖霊がわたしたちを新たな活力をもって神聖に命を与え、豊かに活気づけて下さり、どのようにわたしたちを力づけて下さるうとも、もっと忠実な主のみ事業における僕となりますように。そして、もっとこのお方のみ言葉を通してわたしたちの信頼を強めて下さいますように。

「望みをいづく捕われ人よ、あなたの城に帰れ」。「わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見ている事を、どうして、なお望む人があろうか。もし、わたしたちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐して、それを待ち望むのである」(ゼカリヤ 9:12、ローマ8:24,25)。そうです、主は本当にまもなく来られます！共に協力して、このお方にお目にかかる日を早めましょう！アーメン！

今がその時

わたしたちは、しばしば「今がその時である」ということを思い起こされるべきです。なぜなら、わたしたちは、これまでどうだったか、ということからこれからどこに行くべきなのか、という方向にわたしたちの意識を向けさせる必要があるからです。もし、わたしたちが本当に何かをする準備ができていのであれば、時について述べる必要はないことでしょう。なぜなら、そのような場合には、次から次へと物事が順調に進むからです。

しかし、この祈禱週において、わたしたちはみな、「今がその時である」ということを思い起こさせられます。それは、わたしたちが明らかに十分に考えてこなかった事柄について、より積極的になるためです。もし、わたしたちがその事柄について本当によく考えてきたならば、この世は全く違うものになっていたことでしょう。

神は、この墮落した星に伝えられるべき憐れみのメッセージを聞き、力を受け、行き、そして宣布するという甚だ大きい特権をもってご自分の民を祝福してこられました。

「あわれみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後のあわれみのメッセージは、神〔花婿〕の愛のご品性の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならぬ。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表わさなければならぬ。」¹

わたしたちは、長年に渡って、この任務を遂行するさまざまな手段と方法をもって祝福されてきました。わたしたちは、自分たちに委ねられてきた資源を、感謝すべきほどに感謝してきましたでしょうか。「伝道の働きが伝道の精神よりもはるかに前進していた」²という光景が、これまで確認されてきました。

わたしたちは事態はより困難になってきているのをみとめます。「平安と豊かさの時代において教会が怠ってきた働きが、教会を気落ちさせる恐ろしい危機の下で行われなければならなくなる。」³

そうです、今はまさに、わたしたちの側で多くの事柄が実現されなければならない時です—その実現は、早ければ早い方が良いのです。わたしたちは、永遠の扉のところにあります。わたしたちは、どちらの側に立つでしょうか。わたしたちは、どちらの側のために語るでしょうか。今はまさに、キリストの霊を受けることに飢え渴いている人々、またそれを滅びつつあるこの世に伝える人々の上にその霊が無限に降り注がれるべき時なのです。

「ペンテコステの日に、祈る弟子たちのうえに聖霊が注がれ、彼らはどの場所に行く際にも、その聖霊の源について宣言した。伝道の霊が無限に注がれ、弟子たちは、十字架につけられ、よみがえられた救い主について証し、また、罪、義、来るべき裁きについて、この世の人々に確信を得させた。弟子たちは、自分たちのよみがえられた主から受けた指示どおりに行い、エ

ルサレムにおいて福音を伝え始めたが、そのエルサレムは最も深い偏見が存在していた場所であり、また主が犯罪者として十字架にかけられ、主に関する最も混乱した考えが蔓延していた場所であった。三千人の人々がメッセージを受け入れ、改心した。彼らは、迫害、投獄、死を恐れなかった。かえって彼らは、真理の御言葉を大胆にのべ伝え、ユダヤ人たちの前に、キリストの働き、使命、公生涯、このお方の十字架、復活、昇天を示した。そして男も女も信者が日々、主に加えられた。」⁴

わたしたちは、他の人々と共に祈り行動をとるべき時が今であることを伝える預言の時計に注意をむけるだろうか、—それとも、その時計のアラームを枕に下におき、何とか押さえつけて音を消し、寝続けるべきでしょうか？その選択はわたしたちのものであり、決定すべき時は、今なのです。わたしたちは利己心を空にし、聖霊に満たされることを望むでしょうか？

「全てのクリスチャンに与えられている特権は、主イエス・キリストの再臨を待ち望むことだけではなく、再臨を早めることである…

兄弟姉妹がた、聖霊を請い求めなさい。神がなされた一つ一つのみ約束の背後におられるのである。」⁵

「わたしたちは、神が命の泉の封を開いて下さるよう祈らなければならぬ。そしてわたしたち自身が命の水を受けなければならぬ。わたしたちは、悔いた心をもって、今、後の雨の時代において恵みの雨を受けるために、熱心に祈ろう。わたしたちは、出席する全ての集会において、今この時に、神が温かさ水分をわたしたちの魂に与えてくださることを求める祈りが上るべきである。わたしたちが聖霊を神に求めるとき、それはわたしたちのうちに柔和と謙遜、そして完全にする後の雨のために神への依存しているとの自覚がもたらされる。わたしたちが信仰のうちに祝福を祈り求めるなら、神が約束されたとおりに、その祝福を受けるのである。」⁶

この祈禱週において、素晴らしい救い主の愛が注がれることによって、わたしたちの心がこのうえなくやわらげられ、また時があがなうために、このお方の偉大な創造の力によって豊かに力づけられますように！アーメン。

参照:

キリストの実物教訓392

ビュー・アント・ヘルム 1886年10月12日

教会への証5巻463

ビュー・アント・ヘルム 1894年11月6日

教会への証8巻22,23

牧師への証509

自分の救い主を知るべき時

今日、神格がわたしたちの良心に話しかけておられる

新約・旧約聖書を日々、学ばなければならない。神の知識と神の知恵は、絶えず、このお方の方法と働きを学んでいる学生にもたらされる。聖書はわたしたちの光となり、教育者となるべきである。．．．あらゆる教育における最初の偉大な教訓は、神の意思を知り、理解することである。¹

聖霊は、神の御働きを学ぶとき、聖霊が人の思いに確信をひらめかせる。それは、論理的な考え方が生み出す確信ではない。しかし、思いが神を知ることができないほど暗くなっておらず、このお方を見ることできないほど曇っていたり、この方のみ声が聞こえないほど耳が悪くなってにぶくなっていない限り、より深い意味をつかみ、記されたみ言葉の最高にして霊的な真理が心に印象づけられるのである。²

求めるべき命を救う知識

救い主は次のように述べられる。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることです。」。また神は預言者を通じて次のように語られる。「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。力ある人はその力を誇ってはならない。富める者はその富を誇ってはならない。誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さくあって、わたしを知っていること、わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知ることがそれである」。

だれも神聖な力による援助を受けずにこの神の知識を得ることは出来ない。使徒は次のように言っている、「この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた」。イエスは彼の弟子たちに次のように述べられた。「子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもない。」³

敵の妨害

最初の時代から、人間に神を忘れさせ、彼らを自分自身に獲得できるようにするのが、サタンの研究し尽くしてきた計画であった。そのため、彼は、神の品性について誤解を生じ

させ、人間が神について誤った理解をするように導こうとしてきた。救い主は彼らの思いに、サタン自身である悪の君と同じ性質—すなわち利己的、厳格、人を許さない性格—をまとった者として提示されてきた。こうしてそれにより、神は人間から恐れられ、避けられ、憎まれさえてきた。サタンは自分が欺いた人々の頭脳を混乱させることにより、その頭脳から神を消し去ろうとした。その後、サタンは、その人のうちにある神の聖なるかたちを消し去り、魂の上に自分自身に似た姿を押しつけようとした。サタンは、自分の精神と同じものを人間に吹き込み、自分の意志に従って彼らをとりこにしようと望んだ。

サタンがエバに不法を犯すよう誘惑したのは、神の性質について偽り、神に対する不信を芽生えさせることによってであった。わたしたちの最初の両親は、罪によって心が暗闇に覆われ、彼らの品性は墮落し、彼らの神についての概念は、彼ら自身と同じように偏狭さと利己心によって形成された。人々が罪において大胆になるにつれ、神の知識と愛が彼らの頭脳と心から消えていった。「なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。」。

ときに人類の家族を支配するというサタンの努力が成功したかのように見えたこともあった。キリストの初臨の直前の時代においては、この世はほとんど暗黒の君に支配下に置かれているように見えた。そして、最初の両親の罪を通して、あたかも世の諸々の王国が、正当に彼のものになったかのように、彼はその恐ろしい力により統治した。神が、神に関する知識を保持するために選ばれた契約の民でさえ、神から非常に遠く離れ、このお方のご品性に関するまったく真実な概念を失った。⁴

神の愛の深さが輝き渡る

キリストは、神を愛の神として、恵み深く、優しさと同情に満ちたお方として表すために地上に来られた。神の御座を隠そうと努力したサタンの暗闇は、この世の救い主によって一掃され、父なる神は再び、命の光として人々に示された。…キリストは、神を代表するために世につかわされたと宣言される。キリストの品性の高尚さ、このお方の恵み、優しさに満ちた同情心、このお方の愛といつくしみ深さによって、わたしたちの前に神の完全の具現化されたお方、目に見えない神のみ姿として立つ

ておられる。

使徒は次のように述べている。「神はキリストにおいて世をご自分に和解させ」。わたしたちは、偉大な救いのご計画について考えることによるのみ、神のご品性を理解して感謝することができる。創造のご計画は、神の愛を表現するものであった。しかし、罪深く墮落した人類を救うための神の賜物だけが、無限に深い神聖な優しさと同情心を表すのである。〔ヨハネ3:16引用〕。…

兄弟がた、わたしはヨハネと共に次のことをあなたに呼びかけたいと思う。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」。わたしたちは罪人であり、異邦人であるにもかかわらず、神へと立ち返らせてくださり、神の家族の一員として加えていただけたとは、なんとという愛、なんと比類のない愛だろうか！わたしたちは、「われらの父よ」という愛おしい名で神に語りかけることができる。その名は、神へのわたしたちの愛情を示すしるしであり、また神のわたしたちに対する優しい思いやりと関係についての誓いである。そして、神の御子は、恵みの嗣業をご覧になって「彼らを兄弟と呼ぶことを恥としない」。彼らは一度も墮落したことがない天使たちよりも、さらに神と神聖な関係をもつのである。

これまで人類の各世代において受け継がれてきた親の愛、人間の心において生じた優しさは、神の無限の愛と比較した場合には、広大な海につながる小さい溝にすぎない。舌がその愛を語ることは出来ず、また筆によって書くことも不可能である。あなたは、毎日、その愛について瞑想することができ、その愛を理解するために毎日聖書を読むことができ、また、父なる神の愛と同情を理解するために神から授けられた全ての能力を用いることができる。しかし、さらにその向こうに無限がある。あなたは、この世のためにひとり

子が死ぬことを許された神の愛を永遠にわたって研究することができるが、その長さ、深さ、幅を完全に理解することは出来ない。永遠でさえも、その愛を完全に明らかにすることは出来ない。しかし、わたしたちが聖書を研究し、キリストの人生と救いのご計画について瞑想するとき、それらの偉大な主題は、わたしたちの理解力に対して、ますます開かれるのである。⁵

霊的な戦場

人間が神に関する知識を得ることを妨げる事柄によって人間の頭脳を満たすことを常にサタンは研究している。人間が自分の理解力を弱め、彼自身の魂を弱くしてしまう事柄について常に考えるようにサタンは仕向けようとする。わたしたちは今、罪と墮落の世の中に住んでおり、この世の中においては、キリストに従う人々を誘惑し、気落ちさせる影響力で満ちている。救い主は次のように述べられた。「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。」。多くの人は、彼らの周囲にあ

る恐ろしい悪事や背信、弱さに目を向け、これらの事柄について会話をするため、彼らの心は悲しみと疑いで満たされてしまう。彼らは、大欺瞞者による驚異的な働きをつねに一番に思いの前に掲げ、気落ちさせる経験について常に考える一方で、天の御父の力と無限の愛を見失っているようである。サタンは、このような状態を望んでいる。わたしたちが、神の愛や力についてほとんど考えないまま、義に対する敵は非常な力をまとっていると考えるのは誤りである。わたしたちは、キリストの偉大さについて語る必要がある。わたしたちは、サタンの支配から自分を救い出すことはできない。しかし、神は、わたしたちを救い出す方法を用意されている。神のひとり子がわたしたちのために戦ってくださる。しかし、「わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。⁶

わたしたちが常に自分の弱さについて考え、または陰口を言ったり、サタンの力について嘆いていることに、わたしたちの霊的な力はない。この偉大な真理がわたしたちの思いと心の中の生きた原則とならなければならない。すなわち、わたしたちのために捧げられた犠牲の効果である。それは神のみ言葉によって明示されている条件に従い、神のもとへ来る人々を神は最高にまで救うことができるし、また救われるということである。わたしたちがなすべきことは、自分の思いを神の側におくことである。…

イエスは「父ご自身があなたがたを愛しておいでになる」と言われた。もしわたしたちの信仰がキリストを通して、御父に固定されているならば、それは「たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ『幕の内』にはいり行かせるものである」ことがわかる。確かに、わたしたちに失望がおとずれる。わたしたちに試練が降りかかることを予期しなければならない。しかし、わたしたちは、重要な事であるか些細な事であるかにかかわらず、全ての事を神に委ねる必要がある。神は、わたしたちの多大な悲しみによって困惑することはなく、わたしたちの試練によって困難に陥ることはない。神による保護は、全ての家庭に及び、全ての個人を包む。神は、わたしたちの全ての仕事や悲しみについて強い関心をもっておられる。神は、全ての涙に心を留めておられる。神は、わたしたちが感じる弱さについて強く同情されている。わたしたちに向けられている神の愛のご目的が実現するために、あらゆる苦難や試練がわたしたちに降り注ぐことが許可されている。「そのよさにあずからせるため」である。またこうして、わたしたちは、神のご臨在のうちに存在する完全な喜びにあずかるようになる。⁷

神の知識を得る

「彼らの場合、この世の神が不信の者たちの思いをくرامせて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである」。しかし、聖書は、神に関する知識を得るこ

との重要性を、最も強い表現により記述している。「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたに豊かに加わるように」。「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである」。「あなたは神と和らいで（知って）、平安を得るがよい」。

神はわたしたちに次にお命じになった、「わたしは聖なる者であるから、あなたがたは聖なる者とならなければならない」。靈感を受けた使徒は次のように述べている。神聖な者とならない限り、「主を見ることはできない」。神聖さとは、神と一致することである。人間の中における神の御姿は、罪によって傷つけられ、ほとんど消し去られている。失われた物を回復することは福音による働きである。わたしたちは、その働きにおいて、神聖な代理人と協力する必要がある。わたしたちは、どのようにすれば神と調和することができるだろうか。わたしたちは、神に関する知識を得ることなく、神と同じすがたを受けることができるだろうか？キリストが地上においてわたしたちに明示しようとしたのは、その知識である。……

この世に対し祝福されたイエスを生活と品性においてあらわし、キリストを代表することは、クリスチャンの任務である。もし、神が光を与えてくださったとすれば、わたしたちがそれを他の人々に示すことができるためである。しかし、わたしたちが受けてきた光と、他の人々の心に触れるために与えられてきた機会および特権に比べると、わたしたちのこれまでの働きの結果は非常に小さい。神は、わたしたちが理解するに至った真理が、今表されているよりもっと多くの成果を生み出すようにと意図されている。しかし、もしわたしたちの思いが憂うつと悲しみで満たされ、わたしたちの周囲の暗闇や悲しみを考えているなら、どうしてキリストをこの世に対して表すことができるだろうか？わたしたちの証は、どうやって魂を獲得することができるだろうか？わたしたちに必要なことは、キリストのうちに表された通りに、神と神の愛の力を経験的な知識によって知ることである。わたしたちは、祈りながら勤勉に聖書を研究しなければならない。わたしたちの理解力は、聖霊によって活性化されなければならない。また、わたしたちの心は、信仰、希望、継続的な賛美のうちに神へと引き上げられる必要がある..

兄弟、姉妹がたよ、わたしたちはながめることによって、変えられる。神とわたしたちの救い主の愛について熟考することによって、また、神聖な品性の完全さについて思いを巡らせ、信仰によってキリストの義をわがものと主張することによって、キリストと同じすがたへと変えられなければならない。そうであれば、不快な光景をみな集めることをやめよう。不正、墮落、落胆、サタンをわたしたちの記憶の部屋にかけておき、わたしたちの魂がすっかり失望に満たされてしまうまで語ったり嘆いたりする

のをやめよう。落胆した魂は暗闇でおおわれた体であり、自分自身が神の光を受けることができなくなるだけでなく、他の人が神の光を受けることを妨げてしまう。サタンは、彼の勝利による効果を見ることを喜んでおり、また人間が信仰を失い、落胆する姿を見ることを楽しむ。

感謝すべきことに、主は、より明るく喜ばしい光景をわたしたちに示してくださっている。わたしたちは、神の愛による保証を貴重な宝として集め、常にそれらに目を向けよう。神の御子はご自分の御父の王座を後にし、その神性の上に人性をまわられたが、それは人間をサタンの支配から救い出すためであった。わたしたちのための御子の勝利は、人々に対して天を開き、神格がご自分の栄光を表される謁見室を人々に見せる。墮落した人類は、罪によって破滅の穴に落ちたが、無限の神と再びつながり、わたしたちの救い主に対する信仰を通じて神聖なテストに耐え、キリストの義をまとい、このお方の御座へと高められる—神はこれらの光景でわたしたちの心を喜びで満たすようにとお命じになる。⁸

天の事柄に集中する

天においては、神がすべてのすべてであられる。そこでは聖潔が最高位を占めている。神との調和を損なう物は、一切存在しない。もし、わたしたちがそこへ向かって旅しているのであれば、天の精神がこの地上でわたしたちの心を満たすのである。しかし、もしわたしたちが天の事柄を考えることにおいて何ら喜びを見出さず、神の知識を得ることに興味をもたず、キリストの品性を見つめることを楽しまず、神聖さについて魅力を感じないならば、天に関するわたしたちの希望はたしかに無駄である。神の意思との完全な調和が、クリスチャンにとっていつも目の前にある最大の目標である。クリスチャンは、神やキリスト、そして、神を愛する人々のためにキリストが用意しておられる祝福と純潔の住まいについて語ることを愛する。これらの事柄について考えること、すなわち神による祝福された保証を楽しむことについて使徒は「きたるべき世の力」を味わうこととして表現している。

わたしたちの目の前には、最後の大闘争がある。それは「不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議」によってサタンは、神のご品性について誤解を生じさせ、それにより「できれば、選民をも惑わそうとする」。もし、天からの光の増加を常に求める必要のある人々がいるとするなら、その人々とは、この危機の時代において、神が聖なる律法の保管者となり、世の前に神のご品性を擁護するために召された人たちであり、彼らはこの世に対して神のご品性を示す任務を与えられている人々である。そのように神聖な使命を授けられた人々は、自分たちが信じてと公言する真理によって、靈感を受け、高められ、活性化される必要

がある。かつてなかったほど、教会は、パウロがコロナイ人たちへ次のように記した手紙に描写されている経験を享受することが必要であり、また神は切望しておられる「そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り」⁹

今日のための行動

迫害の嵐が本当にわたしたちに降りかかる時、本当の羊は、本当の羊飼いの声を聞く。失われた人々を救うために自己否定に基づく努力が尽かれ、群れから迷い出た多くの人々は、偉大な羊飼いのところに戻ってくる。神の民は集まり、敵に対して一体となって立ち向かう。共通の危機を目の前にして、最上位を目指す争いごとは消滅する。だれが最も偉いかに関する論争は無くなる。本当の信者は次のようなことを述べない。「『わたしはパウロにつく』『わたしはアポロに』『わたしはケバに』」とは言わない。全ての人々の告白は次のようになる。「わたしはキリストに。わたしは自分の個人的な救い主であるキリストにおいて喜ぶ」。

このようにして、真理が実生活の中において実現し、またご自分の屈辱と死の直前に口にされたキリストの祈りが応えられる。「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」（ヨハネ17:21）。キリストの愛、わたしたちの兄弟姉妹の愛は、わたしたちがイエスと共にいて、イエスに学んできたことをこの世に証する。その後、第三天使のメッセージは大いなる叫びとなり、こうして全地は、主の栄光によって照らされる。¹⁰

神に頼り、神における喜びを待ち望み、神に従い、神のみ言葉に、従順のうちに力に頼る。

真に神に明け渡すことが最も難しいと思われる時に、神に従うことが、神に対する真の服従である。そのような体験は、あなたの道徳的な品性を成長させ、あなたの誇りを抑制する。あなたの意思を神の意思に従わせることを学びなさい。そうすれば、あなたは、光の中にいる聖徒の嗣業に見合うものとなる。¹¹

時の召し

一般的な信仰では不十分である。わたしたちは、キリストの義の衣を身に着け、しかもそれを公に、勇敢に、断固としてまとい、キリストを表し、有限な人間には期待しすぎることなく、かえってイエスを見続け、こうしてこのお方のご品性の完全さに夢中になる。これにより、わたしたちは個人個人が、イエスのご

品性をあらわし、自分たちが真理によって活性化されていることを明らかにする。なぜなら、それは魂を聖化させ、また全ての思いがキリストにとりこにされるからである。

全ての伝道者には、自我との厳しい戦いがある。その戦いが減少することはない。しかし、わたしたちがクリスチャンとしての体験において成長し続け、またもし信仰のうちにイエスを見続けるならば、あらゆる緊急事態において力がわたしたちに与えられる。再生された性質の全ての力、および機能は、絶えず毎日、働かされなければならない。わたしたちは日々、自我を十字架につけ、意志を間違った方向に導こうとする傾向やゆがんだ気質に対して戦わなければならない。信仰によって、わたしたちのためにキリストが勝ち取ってくださった勝利に入るのでなければ、わたしたちに安息と勝利の喜びはない。¹²

参照:

1. 教育に関する特別な証14, 15
2. 同上59
3. 教会への証5, p. 737.
4. 同上738.
5. 同上 738– 740.
6. 同上 740, 741.
7. 同上 741, 742.
8. 同上 742– 745.
9. 同上 745, 746.
10. 同上 6巻 p. 401. (1901 版)
11. キリストを映して108.
12. 同上108

新たに生まれるべき時

デイビッド・ムレサン著—ルーマニア

最も尊い神聖な約束の一つは、「見よ、わたしはすべてのものを新たに作る」（黙示録21:5）というものです。ある物を新しくする必要が生じるのは、現在の物が利用者の必要性を充たさなくなったときです。

「義の住む新しい天と新しい地」（ペテロ第二3:13）を作るという決定は、創造主ご自身によってなされました。なぜなら、創造主は、暗く、罪によって汚されたこの世界の歴史を終わらせる必要があったからです。

神によって創造された物は罪によって汚されているものの、それらの物が全て、神の力と絶対的なご意志によって再生されるという点は、非常に興味深いものです。しかし、一度罪を犯すことを選択した人類は、聖霊を通じて神によって行われる霊的な再生をあらかじめ受け入れるようにと招かれています。なぜなら、神の御国には、「汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない」からです（黙示録21:27）。

ニコデモに与えられた警告は、罪によって汚された全ての人にとって、今日においても有効です。「イエスは答えて言われた、よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」（ヨハネ3:3）。

このような申し入れがなされたのは、神がすべての人に救われて欲しいと願っておられるからです。「わたしは何人の死をも喜ばないのであると、主なる神は言われる。それゆえ、あなたがたは翻って生きよ」（エゼキエル18:32）。しかし、同時に、神は、全ての人間の意思を尊重されます。

人間が自分の救いに気がつき、救いの申し出を受け入れる機会を提供するために、神は、あらゆる手段を用いておられます。

再生はどこで開始されるのか

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わき

まえ知るべきである。」（ローマ12:2）。ここでの「造りかえられる」とは、変えられる、という意味です。

「イエスが述べられた新しい心というものの意味は、思い、生活、およびその人の全てが新たにされることを意味する。心が変わられるという意味は、この世に対する愛情をひるがえし、それらをキリストに固定することである。新しい心をもつという意味は、新しい思い、新しい目的、新しい動機をもつということである。新しい心のしるしは、何であろうか？それは、変えられた生活である。そこには日々に、時々、利己心と誇りに対する死がある。」¹

「思いとは、身体の資本である。」²

「思いが、その人全体を支配する。わたしたちの全ての行為は、良いものであれ悪いものであれ、全て思いに源がある。わたしたちが神を礼拝し、わたしたちを天と同盟を結ばせるのは、わたしたちの思いである。」³

そのため、真の再生を開始するのは、思いなのです。

意志

主がわたしたちの思いに対して話しかけ、主のご提案がその思いに印象づけられる時、すなわち、そのご提案がわたしたちにとって魅力的なものとなると、主は、「もしあなたが…なりたいたいと思うなら」（マタイ19:21）と言うわたしたちの同意をお求めになります。

神は決して、わたしたちの意志を強制なさいませんが、可能なきはいつでも、聖霊の訴えをもって救いの唯一のチャンスをおわたしたちに思い起こさせる方法で応じて下さいます。

「あなたの意志は、あなたの全ての行動の源泉である。その意志は、人間の品性の形成において決定的に重要な役割を果たすが、墮落の時にサタンの支配下におかれてしまった。それ以来、サタンは人間が自分自身のよしとする願いを起こさせ、実現するようにと働きかけているが、その結末は、人間の完全な滅びと不幸である。

しかし、神による無限の犠牲は、神のひとり子イエスを罪のための犠牲として与えることによって払われた神の犠牲は、神の統治の原則の一つとして反することなく、次のように述べる事が出来るようにされた。

『あなた自身を私に明け渡しなさい。あなたの意志をわたしに渡しなさい。その意志をサタンから取り戻すなら、わたしがそれを所有するであろう。そうすれば、わたしはあなたのうちに働きかけて、わたしの喜ぶところをなす願いを起こさせ、かつ実現に至らせることができる』。

神がキリストの思いをあなたに与えるとき、あなたの意志は神の意志のようになり、あなたの品性は、キリストのご品性に似たものへ変えられる。』⁴

「神の霊は、わたしたちの意志や行動において、わたしたち自身がなすべき行為を、神の霊が行うことはご提案なさらない。その行為は、わたしたち自身が、神の代理人と協力して行うべきことである。わたしたちが自分の意志を神の意志へ調和するよう傾けるやいなや、キリストの恵みは直ちに人間と協力する。しかし、キリストの恵みが、わたしたちの決意や断固とした行動の関係なしに、わたしたちのなすべきことを行うことはない。そのため、わたしたちの魂に改心をもたらすのは、光の多さや数多く積み重ねられた証拠ではない。それは、ただ人間がその光を受け入れること、意志の活力を
目覚めさせ、自分の知っていることが義と真理であることを悟り、認めることであり、ひいては、魂を救うために神に任命された天来の助けと共に協力することなのである。』⁵

行動

「わたしは信じており、わたしは望む」ということは、基本ですが、十分ではありません。

「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、
知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい」（ペテロ第二1:5-7）。

「人間は、正しい原則を培うことによって悪に打ち勝つことができる。もし、人が神の律法に従うならば、感覚はもはやたわんだり、ねじ曲げられることはなくなる。諸機能はもはや神から引き離す性質の対象に対して働かせることにより、ゆがめられたり、無駄にされることはない。天からの恵みが、言葉と思想のうちに、またそれらを通して与えられ、活力がきよめられる。新しい品性が形成され、罪の低下は克服される。』⁶

今がその時

わたしたちは、自分が存在することを求めたわけではありませんが、神から与えられた命を享受しています。その命の期間においてわたしたちは、永遠の結果に関する重要な試験を受けています。聖霊は、今日、それが何を意味するかをわたしたちが悟るよう望んでおられます

「だから、聖霊が言っているように、きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら」（ヘブル3:7〔強調付加〕）。

聖書には恵みの招きを受け入れ、変えられ、新たにされ、罪のない人として生きた人々の模範がゆたかにあります。しかし、多くの人々は、聖霊の嘆願を拒み、軽視して、変化と新生のための時を過ぎ去らせてきたのです。

パロの例

「エジプトの王パロの名を、『好機を逸する騒がしい者』と呼べ」（エレミヤ46:17）。

エジプトに降りかかった第二の災いの重要な局面に注目してみましよう。パロはモーセとアロンを呼び、次のように述べました。

「パロはモーセとアロンを召して言った、『かえるをわたしと、わたしの民から取り去るように主に願ってください。そのときわたしはこの民を去らせて、主に犠牲をささげさせるでしょう』。モーセはパロに言った、『あなたと、あなたの家来と、あなたの民のために、わたしがいつ願って、このかえるを、あなたとあなたの家から断って、ナイル川だけにとどまらせるべきか、きめてください』。パロは言った、『明日』。（出エジプト記8:8-10）。

「王は、次の日を指定した。彼は、それまでにかえるが自然にいなくなってしまう、彼がイスラエルの神に服従するというはなはだしい屈辱にあわなくてもすむようにとひそかに願っていた。』⁷

このように、「明日」というのは、サタンが用いる有効な手段であり、破滅へと導く最も効果的な方法です。他方で、聖霊は「今日」と言われます。なぜなら、わたしたちには明日が与えられる保証がないからです。

「神は、そのしもべを通して人間に語り、注意や警告をお与えになり、その罪を非難なさる。神は、すべての人の品性が決定される前に、そのあやまちを正す機会をお与えになるが、もしその人が正されることを拒否するならば、神のみ力は、その人の行為の傾向をほかに向けるために干渉することをしない。彼

には同じことをくり返すことが容易なのである。彼は、聖霊の感化に反対して心をかたくなにしている。」⁸

「悪の道は、変えようと思えばいつでも変えられるし、あわれみの招きを軽くあしらっても、なおくり返しその招きを感じることができると考えて、良心の声をしずめている人々は、非常に危険な道を歩んでいる。彼らは、自分の力のすべてを大反逆者サタン側に置いておきながら、いよいよどうにもならなくなって危険に囲まれたときに、自分の指導者を変えればよいと考えている。しかし、これはそれほど容易にできることではない。罪にふけてきた生涯の体験、教育、訓練などが品性をすっかり形成しているから、彼らはもはやイエスのみかたちを受け入れることができなくなっている。もし光が彼らの道を照らしていなかったならば、事情は異なっていたであろう。あわれみのみ手のべられて、その申し出を受け入れる機会が彼らに与えられるかもしれない。しかし、長い間拒まれ、侮られて来た光は、ついに取り去られてしまうのである。」⁹

ネブカデネザル

聖霊のみ働きによって実現される変化とは、なんと印象的であり、引き上げるものだろう！ネブカデネザルは、新たにされた後、彼の変化の体験について次のように詳しく物語っています。

「この時わたしの理性は自分に帰り、またわが国の光栄のために、わが尊厳と光輝とが、わたしに帰った。わが大臣、わが貴族らもきて、わたしに求め、わたしは国の上に堅く立って、前にもまさって大いなる者となった。

そこでわれネブカデネザルは今、天の王をほめたたえ、かつあがめたてまつる。そのみわざはことごとく真実で、その道は正しく、高ぶり歩む者を低くされる」（ダニエル 4:36, 37）。

「かつての高慢な王は、謙遜な神の子となった。暴君的で専制的な王が、賢明で恵み深い王になった。天の神に反抗して神をのりつた王が、今はいと高き神の力を認めた。そして熱心に主を恐れて、国民の幸福を追求するようになったのである。」¹⁰

タルソのサウロ

キリストの教会を最も熱心に迫害した人々のうちの一人であるサウロは、彼の目的を達成するためにどれほどの血が流されなければならないかを気にし

なかったことを、次のように記しました。「この道を迫害し、男であれ女であれ、縛りあげて獄に投じ、彼らを死に至らせた」（使徒行伝22:4）。

サウロの不信心は正直でしたが、言い訳の余地はありませんでした。「真理に抵抗する心は、全ての事柄をゆがんだ光のうちに見る。その心は、敵の確実な労苦によってしっかり固定され、敵の光のうちには物事を見るのである。」¹¹

「主は常に、全ての人に、彼がなすべき働きをお与えになっている。ここに神と人間の協力がある。人は、与えられた神聖な光への従順のうちに働くのである。もしサウロが、主よ、わたしは、わたし自身の救いのためになされたあなたのご指示に従いたいとはまったく思いません、と述べたならば、仮に主がサウロに十倍の光を与えたとしても、無駄になっただろう。神聖なお方と協力することは、人間の働きである。そして、意志と方法を神のご意志と神の道に傾けることは、大きな決意と決心の目的と時を伴う最も大変で困難な決断と戦いである。…人の品性は、その人の決心と行動の性質を決める。することが自分の感情や傾向に従うのではなく、天におられるわたしたちの父の知られているご意志に従うのである。聖霊の導きについていき、従いなさい。」¹²

サウロは、真理を理解し受け入れた後、直ちにキリストの目的のために、たゆみない働きを始めた「わたしは、すべての人に対して自由であるが、できるだけ多くの人を得るために、自ら進んですべての人の奴隷になった」（コリント第一9:19）。

わたしの場合とあなたの場合

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである」（ローマ13:11, 12）。

「罪人が十字架に到達し、彼を救うために亡くなられたお方を見上げる時、彼は無限の喜びを得る。なぜなら、彼の罪が許されているからである。十字架の下にひざまずいた彼は、人間が到達しうる最も高い場所にたどり着いた。神の栄光の知識の光は、イエス・キリストの顔によって輝いている。そして、許しの言葉が語られる。生きよ、罪人よ、生きよ。あなたの悔い改めが受け入れられた。わたしはあがないしろを得たから」¹³

「特に若い人たちは、新しい心、という言葉につまずく。彼らは、その意味を知らない。彼らは、彼らの感情において特別な

変化が生じることを期待する。彼らは、改心とは、そのような変化であると信じてしまう。その誤解によって多くの人々がつまずき、破滅してしまう。彼らは、『新しく生まれなければならない』という言葉を理解しない。』¹⁴

「神のみ言葉において書かれている最も熱心な祈りは、ダビデが『神よ、清い心をわたしのうちに造ってください』と嘆願したときの祈りである。その祈りに対して神は、わたしはあなたに新しい心を与える、と答えられる。その働きは、有限な人間がなしうるものではない。男女は、まず真のクリスチャンとしての体験を得させてくださるよう熱心に求めるところから始めなければならない。彼らは、聖霊の創造の力を感じるはずである。彼らは、新しい心を受け、その心は、天の恵みによってやわらかく、やさしく保たれるのである。魂から利己的な精神が取り除かれる。彼らは、へりくだった心によって熱心に働き、イエスを見上げ、導きと励ましを求める。その後、建物は、ぴったりと組み合わせられ、主の聖なる宮へと成長する。』¹⁵

「正直なクリスチャンには、疑わしい敬神はない。彼らは、主イエス・キリストを身にまとっている。彼らは、肉の欲を満たすために、肉に備えることはない。彼らは、キリストのご命令を待つ、しもべがその主人の手に目をそそぎ、はしためがその主婦の手に目をそそぐように、常にキリストを見上げる。神のみ摂理がどこへ導こうとも、彼らは出て行く準備ができています。彼らは、自分自身に栄光を帰すことはしない。彼らは、自分の持っているものが何でも—学識、才能、財産—を自分のものだと主張せず、自らをキリストの無限の恵みの管理者にすぎないとみなすのである。彼らは、自分たちをキリストのために、教会の僕であると考え。これらの人々こそ、主の使命者であり、暗やみを照らす光である。彼らの心は、キリストの偉大な心と共に躍動する。』¹⁶

救いを受ける機会、キリストがわたしたちのうちにご自分のみかたちを再創造できるように、ただ自分の全存在をキリストに明け渡すときだけです。そのような偉大な救いに対して無知であるようなことはないようにしましょう。この申し出は、短い人生の間だけであり、わたしたちは、それがどれくらい続くのかわかりません。ですから、永遠の命を求める人にとっての選択肢は一つだけです。それは明日ではなく、今日、新しくされることです。

神は、わたしたちのために、わたしたちの永遠の益と幸福のために、それを求めておられます。

主は近い。アーメン。

参照:

1. ユース・インストラクター-1901年9月26日
2. 教会への証3巻136
3. 思い、品性、個性1巻72
4. 教会への証5巻515
5. 思い、品性、個性2巻691
6. 同上1巻30, 31
7. 人類のあけぼの上巻303, 304
8. 同上307
9. 同上308
10. 国と指導者下巻128
11. SDAパブリックコメント[E・G・ホイト・コメント]6巻1057
12. 同上6巻1058
13. 同上5巻1033
14. ユース・インストラクター-1901年9月26日
15. SDAパブリックコメント[E・G・ホイト・コメント]4巻1165
16. 同上6巻1081

真の改革者となるべき時

アロルド・ゲスナー著 — ブラジル

世における状況

地球という惑星—わたしたちが住んでいる星—は最初、創造主によって素晴らしく、美しいかたちで造られました。全てが完全であり、愛によって備えられ、人類が完全に享受するために捧げられました（創世記1:31参照）。最初の男女は身体的に美しいかたちで造られましたが、何よりも彼らの知性の完全さと正しい品性を有しており、それらは、創造主との交わりによって強化されるのでした。「罪のない彼らふたりは、手で造った衣服を身にまわっていませんでした。彼らは、天使が着るような光と栄光の衣をまわっていました。彼らが神に従って生活するがぎり、この光の衣は、彼らをおおっていたのである。」¹

その完全な光景は、罪が入り込むまで、世界を恐ろしい墮落と不道徳と罪の状態へ投げ入れたときまで続きました。

聖書によって提示された神聖な原則は放棄され、人間の好みにしたがって、単なる形式的な儀式へと凋落した。悲しいことに、真理を守ろうとした人々の多くも、宗教を単なる外見の見せ物にしてしまい、かたちを打ち立て、儀式から愛を取り除いてしまいました。

改革者になるとは何を意味するか？

そのような混乱した状況は、改革者の存在を必要とします。「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる」（イザヤ58:12）。預言者イザヤが記載したこの重要な使命は、無効にされ曲解されてしまった神聖な原則を回復するための改革者たちを指し示しています。

改革者になるということはこのシナリオを受け入れることではありません。破壊された真理の柱を立て直すため活力と確信をもって戦うことです。すなわち、仮に恐ろしい抵抗にあったとし

ても、神の律法を守るという任務に忠実であり続けることです。

ネヘミヤは、彼の時代において最大の権力を有していた王の僕でした。しかし、彼の故郷であるエルサレムが荒廃し、破壊されたままであることを知って彼の心は悩まされていました。しかし、彼は、困難や不可能によって落胆することはありませんでした。他の改革者と同様に、彼は、自分の目的を達成するためにあらゆる手段を尽くしました。神による指示の下、彼は全ての障害を乗り越え、彼の祖先の故郷を回復するために必要な資源を携えてエルサレムに到着しました。そしてネヘミヤの敵が、改革の働きが継続できないように、彼の注意をその任務からそらそうとし、殺そうとさえたときに、彼は確信をもって次のように答えました。「わたしは大なる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしおいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか」（ネヘミヤ6:3）。

サタンは、改革者になれなくするような事柄にわたしたちを巻き込もうとします。わたしたちが永遠の福音を通して受けてきた厳格な遺産からわたしたちの気をそらすことをサタンは狙っています。しかし、わたしたちは真の改革者として「わたしは偉大な仕事をしているのだから、その仕事を止めることはできない」と答えなければなりません。

わたしたちが生きている時代

わたしたちの時代は、洪水前の時代と比較されています。ちょうどその時代と同様、現代においては、神により確立された諸原則は忘れられ、捨てられ、嘲られています。この世によれば、忠実であることは、美徳ではありません。ノアの時代と同様、墮落、不道徳、不誠実が人類にとって当たり前になっています。「また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう」（マタイ24:12）。

イエスによって変えられた生活により神の律法に従うことは、今日においては大変、珍しい特徴となっています。相対論は、人類を罪の沼地に陥れています。「わざわざいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする」（イザヤ5:20）。

これら全ての事柄は、キリストが門口まで来ておられることを示しています。キリストがこの世へ戻ってこられるのは、わたしたちが想像できる以上に近いのです。靈感は、預言の時計を通じて、その時が来つつあることを示しています。

「神の民と称する人々が、世と結合し、世の人々のように生活し、禁じられた快楽を彼らとともにしているとき、世俗のぜいたくが教会のぜいたくとなり、結婚の鐘が鳴りひびき、すべての者が、世俗の繁栄が長年にわたって続くと思っているそのときに、突然、いなくが天からきらめくように、彼らの輝かしい幻とむなしい望みとは、消えさるのである。」²

神は改革者から何を期待なさるか？

信心の原則が完全に破壊されているこの時代において、忠実な砦、また真理の擁護者として生きることが、改革者の使命です。現代は改革の時です。神は、ご自分の民に真の改革の働きを期待しておられます。それは心から開始され、イエス・キリストの再臨のために準備する点にまで拡張します（使徒行伝3:21参照）。

神のみ言葉の原則を現代において実践することがわたしたちの責務です。神はわたしたちに神のみ名について証言するという特権を与えてくださいました。ですから、わたしたちは、その特権から注意をそらすことはできません。「神の言葉のうちに述べられている原則を、日常の生活において実行するということが、しばしば、重要でなく、注目に値しないささいな事と思われる。しかし、その結果の重要性を考えると、それを助けたり、妨害したりするものは、何一つささいなこととは言えない。」³

神は、わたしたちが神の残りの民として、真の改革者になることを望んでおられます。しかし、わたしたちは、ユダヤ国家が陥った過ちを繰り返すことはできません。彼らは選民であり、聖なる国民であり、それらの点が彼らを満足感と誇りで満たしました。彼らは、いつまでもその立場を享受することが出来ると考え、真の宗教を軽視しました。彼らは、自分達自身を楽しませることに満足するようになり、神を忘れました。単に家系により相続することで彼らは満足し、彼らの日常生活は、その信仰の告

白と一致しませんでした。

同様の現象がわたしたちに起こっているようです。わたしたちは、この世の終わりの時代において、真理の旗印を担うために、神によって選ばれました。わたしたちはこの特権により満足して誇り、自分たちの使命を忘れることがあってはなりません。神があてにすることのおできになる改革者になるため、わたしたちの心は、キリストの恵みにより完全に変えられる必要があります（エゼキエル36:26参照）。わたしたちは、新しい心をもつことにより、偉大な改革の働きにおいて神に用いられることができるようになります。

改革者という概念

わたしたちの宗派の歴史は、神の律法の普遍性を強調する必要性から始まりました。神の戒めは永遠であり、その律法はとこしえに続きます。利便性や世との結合のために、聖なる諸原則が破られているときに、わたしたちは神のみ言葉に対する従順のうちに狭い道にとどまることが求められています。「国民が彼ら自身の業績に全く満足しているとき、彼らはほとんど見込みがないのである。」⁴

わたしたちの改革の先祖達は、神聖な遺産を保持するという使命を直ちに担いました。

わたしたちの責務は、契約の箱を担うことです。わたしたちに改革の精神がなくてはなりません。わたしたちは、100年以上前に開始された働きを中断するわけにはいきません。この道をたどることは、楽ではありません。しかし、これこそ、通らなければならない道です。わたしたちの神聖な同伴者であるお方は、一歩ごとにわたしたちと共に歩んでくださいます。

「『狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない』。これらの道は、はっきりと区別されており、反対方向へ進む。一つの道は永遠の命へ導き、他方は永遠の死へ導く。わたしは、これらの道の区別がまた、そこを旅する人々の間をも区別していることを見た。それらの道は反対であり、一つは広くなだらかで、他方は狭く荒い。そのため、これら二つの道を旅する人々は、品性、生活、服装、会話において、反対である。」⁵

改革者になるという

ことは、日々、わたしたちの宗派の特徴を生きるということ。わたしたちは、この地球へのイエスの来臨という祝福された希望を先祖から受け継いできました。神の律法の板における第

四の戒めの輝きが明らかにされ、第7日目の安息日がわたしたちのクリスチャン生活に組み込まれています。「改革運動」という名称がわたしたちの宗派につけられていることによって、わたしたちは、もし自分たちが注意を怠るならば、わたしたちの霊的な旅は停滞してしまうことを悟るのです。改革とは、より悪いことからより良いことへ変化することを意味します。しかし、改革において、わたしたちは、神のみ言葉を、わたしたちの信仰と実践の唯一の基準として、適切な場所において保持する、すなわち高く掲げる必要があります。

キリストの再臨

人類の歴史においてもっとも偉大な出来事は、イエスがご自分の教会を求めて二度目にこの地上に来られることです。わたしたちはアドベンチストであり、イエスの再臨を待ち望んでいるのであるから、わたしたちは、この歴史的瞬間を喜びをもって体験する候補者です。イエスと共に雲の中を引き上げられ、永遠の家へ旅を始めることが、わたしたちの最終目標です。

しかし、その目標を実現するためには、わたしたちは準備をする必要があります。イエスを待ち望むということは、準備、忠実、そしてこのお方に完全に明け渡すことを意味します。イエスを待ち望み、自らをイエスの子として認めながら、また同時にこの世の事柄に愛情を注ぐことは反逆を意味します。そしてサタンは、わたしたちの関心をキリストおよび再臨から引き離すために無数の楽しみを提示し、ちょうどノアの時代のように、わたしたちの目と心をこの世とその楽しみに固定させようとしています（ルカ17:26,27参照）。

「わたしたちがキリストのみかたちへと変えられるのではなく、この世に同化してしまう危険性を、わたしは見せられた。わたしたちは今、永遠の世界の入り口に立っているが、わたしたちの魂の敵の目的は、わたしたちが最後の時を遠い先に押しやるように導くことである。律法を守る神の民であり、偉大な栄光と力を伴って天の雲に乗って再臨される救い主を待ち望んでいると公言する人々を攻撃するために、サタンはあらゆる手段を尽くしている。サタンは、少しでも多くの人々を導いて、この悪の日を先に延ばさせ、この世の精神に迎合させ、この世の習俗に従わせようとしている。」⁶

わたしたちは、一瞬たりとも、天と忠実な人々に約束されている不思議から目を離すことはできません。わたしたちのうちの多くは、永遠の事柄についてはあまり考えず、かえって、この地上生活で得られるだけのものを得るためには、すべてのことをし

ます。そのためには、わたしたちのすべての時間、力、金銭を投資します。わたしたちは、この世において可能な限りを達成しながら、目的を逸するかもしれないのです。「人が全世界をもうけても、自分自身を失いまたは損したら、なんの得になろうか。」（ルカ9:25）。あなたは、天に住みたいでしょうか？もしそうであるならば、今が真の改革者になるべき時であり、イエスの再臨を待ち望み、早めるべきです！

安息日

何世紀もの間、ほとんどすべての人類から隠されていた聖書の偉大な真理のうちの一つは、神の律法における第四の戒めである安息日の有効性です。安息日は人類に対する神の愛と保護の印としてわたしたちの最初の両親に与えられました。その時以来、サタンは、主の聖日を隠し、無効にし、破壊するために戦ってきました。なぜでしょうか？なぜなら、安息日はイエスをわたしたちの創造主、贖い主、そして全宇宙の王として指し示すからです。

「安息日がすべての人に守られ、人間の思いと愛情が、崇敬と礼拝の対象としての創造主に向けられていたならば、偶像礼拝者や無神論者や不信心者は決して出てこなかったことであろう。安息日を守ることは、…真の神に対する忠誠のしるしである。」⁷

主の使命者が天の聖所の幻を見せられた時、彼女は、第四の戒めが力強い光に囲まれており、第四の戒めが他の戒めよりも際立たせられているのを見ました。これは、第四の戒めが無効にはなっていないことを表すだけでなく、その戒めが神の民を特定する神の印であることを示していました。

「安息日を守る人々にとって、安息日は聖化のしるしである。聖化とは神との調和であり、品性において神と一つになることである。神のご品性の写しである神の諸原則に従うことによって、聖化を受ける。そして、安息日は従順のしるしである。心から第四の戒めを守る人は、律法の全体を守る。彼は、従順によって聖化されるのである。」⁸

では、わたしたちは、どのように安息日を守っているでしょうか？神の聖なる時間において、わたしたちの会話や思想は、どのようなものでしょうか？この点について、わたしたちは長い道のりを来ました－わたしたちは、土曜日に働かず、物の売り買いをせず、料理をせず、土曜日を教会と奉仕の働きに捧げます。しかし、安息日の聖化は、ただこれらことばかりではありません。その聖化は、事前の

準備により開始され、イエスのご臨在において安息日を楽しむために全てが準備できているよう心を配ることから始まります。聖日の制限は、神聖なものです。わたしたちは、安息日の開始と終了の両方において、忠実でなければなりません。家族は、これらの時間、調和して楽しむべきです。この日、わたしたちの思いはイエスにとりこにされていなければなりません。安息日におけるわたしたちの目標は、自分たちの関心を、自分の意志ではなく神の意志を行うことに焦点を合わせることであるべきです（イザヤ58:13, 14参照）。安息日を高く掲げることによって、真の改革者になるべき時です！

世俗

当初から、わたしたちを神から引き離すことがサタンの目的でした。サタンは、その目的を実現するために、この世、およびこの世の原則が大変貴重であるかのようにわたしたちに提示し、ちょうどエバに禁じられた果実をもって誘惑したように、それらを失うことは不幸につながると示唆しています。サタンは、イエスを高い山の上へと連れて行き、この世の偉大なことを全ての物、この世の王国とその栄光を見せ、もし、イエスがサタンを礼拝しさえすれば、それらを与えると約束しました。「しかし、キリストは動じなかった。彼は、その誘惑の力を感じた。しかし、わたしたちのためにその誘惑に会われ、克服された。」⁹

サタンはまた、この世およびその慣習を偉業として提示します。わたしたちは常に、この世の「美しい果実」による爆撃を受けており、その果実にあずかるよう招かれています。そして、不幸なことに、その試みは成功しているのです。教会は、サタンからの攻撃を受けることにより、多大な損失を被っています。わたしたちは、イエスが「聖書にこのように書いてある」と述べて撃退なさったように、してきませんでした。この最後の厳粛な印する時において、わたしたちの思いが世俗的な事柄によって没頭しているのです。使徒ヨハネはわたしたちに次のように警告しています。「世と世にあるものとを、愛してはいけぬ。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない」（ヨハネ第一2:15）。

「集中的な世俗は、これまでサタンの最も成功する誘惑の一つであった。彼は、人々の心と思いを世俗的な魅力によって満たし、天における事柄がわたしたちの思いの中に入らないようにする。サタンは、この世の愛着によって人々の思いを支配する。地上の事柄が天の事柄をかげらせ、その理解力と視野か

らイエスを取り除いてしまう…人々は、この世の輝きやめつきによって魅了されてしまう。地上の事柄に執着するあまり、多く人が何か世俗的な優位性を得るためには、どんな罪でも犯してしまうのである。」¹⁰

服装

わたしたちの宗教の主な証拠の一つは、わたしたちの外観—わたしたちが自らをどのように表すかです。神のみ言葉は、真のクリスチャンがどのような服装を身につけるべきかを明らかにしています。しかし、不信者と同じようになりたいという欲求により、神の子らが、この世にならって衣服を身につけるように導かれてきました。彼らは、神がわたしたちに示してくださった指示を無視し、彼ら自身の好みに従うことを決心します。エバのように、彼らは、敵の言葉を好んで、神のみ言葉を信じないのです。

「多数の人々は、不信者に対して影響力をもつために、この世の人々と同じような服を着る。しかし、彼らは、悲しい過ちをおかしている。もし、彼らが真の救いに至る影響力をもとうと思えば、自分の告白に従った生き方をさせなさい。彼らの信仰を、彼らの義なる行いによって信仰を示し、クリスチャンと世の人の区別を明確にすべきである。言葉、服装、行動は、神のために語るべきである。そのとき、聖なる感化力が、彼らの周囲の人々に対して及び、不信者でさえ、彼らがイエスと共にいたことを認識するようになる。もし、だれでも真理のためにものをいう感化力を持ちたいと望むならば、自分の公言通りに生きなさい。こうして、謙遜な型であるお方を模倣しなさい。」¹¹

「自己否定と犠牲がクリスチャン生活の特色となる。好みが変わったことの証拠は、主にあがなわれた者たちのために与えられた道を歩むすべての者の服装に見られるようになる。」¹²

不道徳に対する保護

いちじくの葉の衣は、神にとって好ましいものではありません。道徳的な保護が、クリスチャンの衣服の徳です。好色は、サタンがわたしたちに対して仕掛けた罠です。そして、神の子らは、常にキリストにつながっていることにより、誘惑に陥らないよう保護されていなければなりません。自分の足がしっかりと岩に固定していない人は、誘惑に打ち勝つことはできません。そればかりではなく、この態度に—例えば、不適切な服装など—によって、他の人々のうちに誘惑を引き起こす人々は、誘惑される

人と同じように罪深いのです。「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。」(ヨハネ第一2:16)。

「この世は教会に持ち込まれるべきではなく、この世が教会と結婚し、一体となることは許されない。」¹³

今は、わたしたちが真の改革者になるべき時です！わたしたちの衣服は、趣味の良いもので、長持ちする質の良いものでなければなりません。しかし、神が忌み嫌われる物、すなわち慎ましさがなく、官能的な「いちじくの葉」は、クリスチャンによって拒絶されなければなりません。

「罪によって欺瞞によって、心を頑なにしてはならない。流行は、わたしたちの民の知性を低下させ、霊性を食い尽くす。流行に従うことは、セブスデー・アドベンチスト教会をゆがめることであり、他のどんな力よりも、人々を神から引き離す力を発揮している。わたしはわたしたちの教会の規則が、非常に不十分であることが示された。衣服に現われる誇りはみな、神のみ言葉によって禁じられており、除名のための十分な理由となる。もし、警告、勧告、嘆願にもかかわらず、歪んだ意志に固執する人がいるならば、そのような固執は、その人の心が少しもキリストの心に同化していない証拠とみなすことができる。自己、ただ自己のみが崇敬の対象であり、そのような人がクリスチャンだと公言することは、多くの人々を神から導き出してしまう。」¹⁴

真の改革者たちの模範

エリヤは真の改革者でした。彼は、他のすべての上に原則をおきました。彼は、自分自身の生命を危険にさらしながらも、人々に対し、偶像礼拝から離れて神のところへ戻ることを勧めました。聖書は、最後の時代における改革の働き象徴としてエリヤを述べています(マルコ9:12; マラキ4:5, 6)。バアルに対してひざをかがめない忠実な人々は、現代において神があてにすることがおできになる人々です。

バプテスマ・ヨハネは、エリヤの霊のうちに、やはり人気がない真理を宣布しました。彼は、罪をその正しい名で呼び、こうしてメシヤのための道を備えました。彼は、改革者としての責務を全うすることにより、自分の命を失いました。しかし、彼の名は、

キリストの王国において、最も偉大な名の一つである。キリストが彼について、「あなたがたに言っておく。女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい」と宣言されたのです(ルカ7:28)。

中世においては、勇敢な改革者たちが聖書の真理を守るために立ち上がりました。神のみ言葉の原則を高く掲げるという偉大な働きにおいて、ルターや他の人々が神に用いられました。彼は度々、迫害者によって死の危険にさらされましたが、キリストのうちに見出される真理を教え、生きるという彼の明確な責務から雲隠れすることは決してありませんでした。ある時、彼は、彼を告発する当局者の前に現れないようにという助言を受けたとき、ルターは次のように宣言しました。「もし、ウォルムスの都市において、この天井のタイルと同じ数の悪魔がいたとしても、わたしはその都市に足を踏み入れる」¹⁵

このような勇敢な精神は、全ての改革者の特徴であり、改革運動の先駆者たちにも見られました。非難や中傷に直面しながら、彼ら自身の命をかけることになってさえ、彼らは真理を守るために堅く立ちました。そして、このような偉大な信仰の戦士たちによる努力のおかげで今日、わたしたちはここにいるのです。

預言の霊は、今日の改革の働きにおいて、クリスチャンのような品性の重要性を強調しています。

「改革者は、破壊者ではない。彼らは、自分たちの計画と調和せず、彼らと同化しない人々を破滅に陥らせようとするとは決してない。改革者たちは、前進しなければならず、後退してはならない。彼らは決心し、固く立ち、確固として、躊躇してはならない。しかし、堅固さは、人を支配する精神へと劣化してはならない。神はご自分に仕えるすべての人が、原則に関わる場所では岩のように固く、しかし、キリストのように柔和で心のへりくだった者となることを望んでおられる。そのとき、彼らはキリストとつながることにより、キリストが彼らの立場におかれた場合になされるはずの働きをなすことができる。」¹⁶

わたしたちは、み働きを「無礼で批判的な精神」によって傷つけてはならない。それは、「今日の改革の働きにおける英雄的な行動にとって不可欠なものではない。」¹⁷

神の恵みにより、わたしたちの心に神の品性を植え付けていただくことができます。そして、その品性がわたしたちの生活において完全に確立するとき、わたしたちはキリストのような改革者になることができます。わたしたちは、罪深い女性に正しい言葉を語ったり、性急なペテロをけん責するための神聖な知恵を得

ようになります。わたしたちは、人々を祝福し、また両替商たちの机をひっくり返す両方に成功するようになります。しかし、わたしたちは決して、キリストの霊なくして真の改革者になることはできません。わたしたちは万物更新の時代に生きており、キリストに期待しておられることを実現するためには、キリストがわたしたちの中に住まわれる必要があります。

結論

エリヤは、至る所を追跡され、狩り出されましたが、神が彼を隠されました。彼が改革をするよう人々に呼びかけたとき、彼は偶像礼拝者である女王によって死刑の宣告を受けました。彼は、自分の働きを果たした後、死を見ることなく天へと引き上げられました。

バプテスマのヨハネは、不当な扱いを受け、中傷され、投獄されました。彼の短期間の祝福された伝道活動は、彼が逮捕され打ち首にされたときに終了しました。

中世におけるほとんどの改革者たちは、神のみ事業を改革するという召しを果たしたことによって、迫害され死刑に処せられました。「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」（テモテ第二3:12）。

わたしたちの信仰の告白の結果として、いかなる結果がわたしたちに降りかかったとしても問題ではありません。わたしたちの目前には、地上の歴史において最も暗い章が待ち受けています。わたしたちは、当局の前に連れていかれ、裁判を受け、不当に有罪宣告を受けるでしょう。しかし、より重要なことは何でしょうか？ イエスはわたしたちに次のように命じられておられます。「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。」（黙示録2:10）。終わりの時代に生きる真の改革者のための約束はこれです、「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」

（黙示録3:21）。イザヤ51:11は、忠実な改革者の報いは比類のないものであり、永遠であることを示しています。

真の改革者たちは、迫害を受け、拒絶され、攻撃を受けるでしょう。しかし、その働きは完遂されなければなりません。わたしは、この任務を完遂するために召されました。皆さんもこの任務を完遂するために召されたのです。わたしたちは何を待っているのでしょうか？ わたしたちが真の改革者となるように聖霊が導いてくださいますように！

参照:

1. 人類のあけぼの上巻20
2. 各時代の争闘下巻28, 29
3. 患難から栄光へ上巻337, 338
4. 同上258
5. クリスマス経験156
6. 教会への証4巻306
7. 各時代の争闘下巻157
8. 教会への証6巻350
9. セレクト・メッセージ 1巻255
10. 同上254, 255
11. 伝道672
12. 患難から栄光へ下巻223
13. 牧師への証265
14. 教会への証4巻647, 648
15. バロック・トーマス A近代ヨーロッパ史44, 英国図書館1871年
16. 教会への証6巻151
17. 同上

自分が信じていることを知るべき時

セザール・ペレス・ディアス著—メキシコ

信仰に関する真理を明らかにすべき時が到来しました。天の聖所の貴重な光によって明らかにされている現代の真理があります。

靈感の筆は、次のように記載しています。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。ひとりびとりの魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、かすかすの書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分たちの分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要なことであろう。

こうした問題について光を受けた者はみな、神が彼らにゆだねられた大いなる真理について証言しなければならない。天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。それは、地上に生存するすべての者に関係している。それは、贖罪の計画を明らかにし、われわれをまさに時の終わりへと至らせて、義と罪との戦いの最後の勝利を示してくれる。すべての者が、これらの問題を徹底的に研究し、彼らのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである。」¹

あなたが聖所の真理に関して信じている事柄を知るべき時が来ました。なぜなら、現代の真理は全て、その中に具現化されているからです。聖所は、キリストの受肉とこのお方の十字架上の死について語っています。聖所は、義、聖化と贖いについての真理を明らかにしています。また、聖所は、パプテスマについての真理、安息日（印）と律法についての真理、また健康改革の法則についての真理を同様に教えています。また先に述べたように、調査審判（至聖所におけるキリストの働き）についての真理、最後の審判、およびその他のわたしたちが告

白している全ての真理が聖所のうちに具現化されています。

今回は、黙示録14章における三天使のメッセージ、および黙示録18章における他の天使達に特別の焦点をあてていきましょう。

永遠の福音

「黙示録14章に書かれている第三の天使は、中空をすみやかに飛んでいるものとして表されており、次のように叫んでいる、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』。ここに、神の民の働きの性質が示されている。彼らが伝えているメッセージは極めて重要であるため、それを世に伝えるために、中空を飛んでいるものとして象徴されている。彼らは、飢えている世界のために命のパンをその手に携えている。キリストの愛が彼らに迫っているのである。これが最後のメッセージである。このメッセージが働きをなし遂げた後に次はなく、伝えられるべき憐れみの招きはない。なんという信任であろう！恵み深い招きの言葉を伝えるべきすべての人々に、なんという責任があることだろう！御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい』。

聞くすべての者は次のように言うのである、来たれ。牧師だけでなく、民でもある。この招きにすべての人が加わるのである。自分たちの告白によってばかりでなく、その品性と衣服によって、すべての人は勝ち取る感化力を持つべきである。彼らは世に対する受託者、人に尊い真理を遺されたお方の遺言を実行する者とされている。それによって神から与えられた信任の尊厳と栄光を、すべての人は感じるができるであろうか？²

わたしたちは、全世界に対して与えられた第三天使のメッセージの意味を理解する必要があります。それは律法と永遠の福音です。時になぜそれが永遠の福音と呼ばれているのかを尋ねます。それは、律法が永遠であり、また福音—救いに関する良い知らせ—もまた永遠のものだからです。「だれでも福音を説かないで、神の律法を正しく語ることはできない。また、

律法をはなれた福音を説くこともできない。律法は、福音の具体的表現であって、福音は、律法の解説である。律法は根であって、福音は、律法のかんばしい花であり、その結ぶ実である。」³

「律法と福音は完全に調和している。それらはお互いに支え合っている。律法はそのあらゆる大権のうちに良心を突き刺し、罪のための供え物としてのキリストの必要性を罪人が感じるようにさせる。福音は、律法の力および普遍性を認める。「律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう」（ローマ7:7）。律法によって罪の意識が生じ、罪人を救い主へと駆り立てる。罪人は必要を感じて、カルバリーの十字架で備えられた力強い論拠を提示することができる。罪人は、キリストの義をわがものと主張することができる。なぜなら、キリストの義は、悔い改めた全ての罪人に対して与えられるからである。神は次のように宣言しておられる。「わたしに来る者を決して拒みはしない」（ヨハネ6:37）。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」（ヨハネ第一1:9）⁴

黙示録14:2に、「イエスの信仰」についての記述があります。第三天使のメッセージに含まれているイエスの信仰とはどのようなものでしょうか？ イエスは、罪を許す救い主として、わたしたちによる違反を背負って下さいました。このお方はこの世に来られ、人々の罪を負われたため、わたしたちはこのお方の義を受けることができます。そして、わたしたちを完全にあますことなく救うキリストの力を信じる信仰こそ、イエスの信仰なのです。しかし、律法はわたしたちの罪を明らかにするものであり、その治療法を提供することはありません。キリストの福音のみが救いを提供することができます。許されるためには、罪人は神に対する悔い改めを働かせなければなりません。このお方の律法が破られたのです。そしてキリストとその贖罪の犠牲を信じる信仰を持たなければなりません。

もう一人の御使からのメッセージの光

悲しいことに、「主は侮辱されてきた。第一、第二、第三天使のメッセージという真理の旗印は、ちりの中を引きずられるままにされてきた。もし、見張り人がこのやりかたで民を誤り導くままに放置されるなら、神がご自分の群に与えられてきた食料がどんな種類のものであるかを発見する鋭い識別力に欠けていた魂に責任を問われるであろう。」⁵

「わたしたちは、第三天使のメッセージを不明瞭なかたちで伝え、それによりそのメッセージが人々の心に印象を残さない危険性がある。あまりにも多くの他の関心事が持ち込まれ、力強く宣布されるべきメッセージそのものがやわらげられ、声が聞こえなくなっている。」⁶

そのため、非常に優しい主は、もう一人の天使を送って下さいました。その天使は、第三天使と声を合わせます。その天使は新しいメッセージを携えてくるのではなく、むしろ既に存在している第三天使のメッセージを強めるのです。

「第三天使のメッセージは力強く伝えられなければならない。第一および第二のメッセージの力は、第三天使のメッセージにおいて強められるのである。ヨハネは、黙示録において、第三天使に合流する天からの使者について述べている。『この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった」（黙示録18:1,2）。」⁷

「第三天使のメッセージは全地をめぐり、民を目覚めさせ、彼らの注意を神の律法とイエスの信仰へと向けさせなければならない。もう一人の御使の声は、第三天使の声と一つになり、地上はその栄光によって明るくされる。その光は増し加わり、地上の全ての国々を照らす。その光は燃える炎のように広がる。その光は、偉大な力を伴い、その黄金の光が全地の面のあらゆる国語、あらゆる民族、およびあらゆる国民へ及ぶ。あなたにたずねたい、あなたは、この働きの準備をするために何をしているだろうか？ あなたは、永遠の事柄のために建てているだろうか？ この天使は、世に伝えるべきこのメッセージを持っている人々を表していることを覚えていなければならない。あなたは、その人々の中にいるだろうか？ あなたはわたしたちが携わっているこの働きがまことに第三天使のメッセージだと信じているだろうか？ もしそうであれば、そのとき、あなたはわたしたちになすべき力強い働きがあること、またわたしたちはそれに取りかからなければならないことを理解する。わたしたちは真理に厳密に従うことによって、神とそのみ働きに対して自らを正しい関係に置き、自らを聖別しなければならない。」⁸

ある人々は、どの宗派に属するかは重要ではないと考えています。しかし、この言葉によると、わたしたちはその栄光によって地を照らす天使によって象徴される人々に加わるよう奨励さ

れています。これらの人々は、この時代のための貴重な真理を宣言する働きに従事しています。

自分自身の意志を脇において、神の意志を行うことを求める人々、自分の心と生活に神聖な律法がしるされている人々が今もいます。

「黙示録18章は、教会が、黙示録14:6-12の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後の器である。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで議を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わず力に陥るままにされる（テサロニケ第二2:12）。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、『わたしの民よ。彼女から離れ去れ』という招きの声に耳を傾けるのである（黙示録18:4）。」⁹

第四の天使によってもたらされたメッセージは、黙示録3:18、19の記述に基づいています。靈感による筆は、次のように記述しています。

「複数の人々がわたしに対し手紙で質問をしてきた。その質問の内容は、信仰による義のメッセージは、第三天使のメッセージであるか？というものであった。わたしは、それはまさに第三天使のメッセージであると回答した。」¹⁰

清め、準備、改革の働き

黙示録18章の預言は間もなく、実現されます。第三天使のメッセージが宣言されている間、もう一人の御使が天から降りてきて、神の栄光によって、そしてわたしたちの救い主イエス・キリストの知識を通して、地上を照らします。聖霊は、全ての信者の心および思いにこのお方の清めの働きを完成させます。主は次のように宣言しておられます。「わたしは清い水をあなたがたに注いで、すべての汚れから清め、またあなたがたを、すべての偶像から清める。わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる」（エゼキエル36:25-27）。これが特別な働きをなすために神から送られた聖霊の働きです。この働きは1888年から開始されました。

黙示録18章のすべては、この働きの栄光に満ちた結末に

よって完成しますが、その働きは、まだ完了していません。第四天使のメッセージの光は、1888年のミネアポリスにおける印象的な運動から光を発し始めました。ただ一つの理にかなった結論は、その光が、人間の器によって妨げられてきたということです。

「テストの時がまさにわたしたちに迫っている。なぜなら、第三天使による大いなる叫びが罪を許される贖い主、キリストの義の啓示のうちにすでに始まっているからである。それは全地をその栄光で照らす御使の光の始まりである。なぜなら、イエスを掲げ、このお方を型のうちに明らかにされた通りに、象徴のうちに影を映したとおりに、預言者たちの啓示のうちに表された通りに、弟子たちに与えられた教訓や人の子らのためになされたすばらしい奇跡のうちに覆いが外された通りに、このお方を世に提示することは、警告のメッセージを受けた全ての人の働きだからである。」¹¹

この天使によってもたらされた希望のメッセージ（黙示録18:1）は、ラオデキヤにある教会に向けられた忠実な証人のメッセージであり、改革の運動に象徴されています。

第三天使による宣言に声を合わせるその天使は、彼の栄光によって全地を照らします。このように全世界的な範囲と尋常でない力の働きが予告されています。第三天使による最後の警告の宣布のもとに発展する力強い運動によって、全ての障害は克服されます。ある人々は、これが宗教的な運動であることを悟りませんが、次の記述は、わたしたちのためにこの点を明らかにしています。

「この時のバビロンについては次のように宣言されている。『彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる』（黙示録18:5）。彼女の罪の升目を満たしており、間もなく破滅が彼女の上に降りかかろうとしている。しかし、神はなお、ご自分の民をバビロンの中に持っておられる。そして、神の裁きが到来する前に、信仰深い人々は呼び出され、『その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないように』しなければならない。そこで、天から降りてくる天使によって象徴される運動は、彼の栄光によって地上を照らし、力強い声によって叫び、バビロンの罪を宣言する。彼のメッセージに関連して、次の召しが聞かれる、『彼女から離れ去れ、わが民よ』。これらの警告が第三天使のメッセージに加わる時、そのメッセージは大いなる叫びとなる」¹²

「現代において非常に重要な質問は次である。『だれが主の側にいるか？世に真理のメッセージを伝えるにあたり、だれが

天使と一つになるだろうか？だれがその栄光によって全地を満たす光を受けるであろうか。』¹³

自己を否定し、キリストのために生きる

中空を飛び、神の律法とイエスの証を宣言している第三天使は、わたしたちの働きの象徴です。天使が飛び続ける中、そのメッセージは、一切、力を失うことはありません。そして啓示者ヨハネは、全地がその栄光によって明るくされるまで、強さと力が増していくのを見えています。神の律法を守る人々の道は、前進、常に前進です。わたしたちが伝えている真理のメッセージは、あらゆる国民、国語、民族へ届き、全地がその栄光によって明るくされるに至らなくてはなりません。わたしたちは、この神の御霊の偉大な降下のための準備をしているのでしょうか？

「わたしたちは、後の雨について心配をする必要はない。わたしたちがなすべきことは、自分たちの器をきれいに保ち、真上に向けて、天からの雨を受けるための準備をし、次のように祈ることである。『後の雨をわたしの器に降り注いでください。第三天使に加わる栄光の天使の光がわたしを照らすようにしてください。わたしをその御働きに加えてください。わたしにその宣言をさせて下さい。イエスと共に働く共労者となさせてください』。そのように神を求めるとき、間違いなく、このお方はいつでもあなたをふさわしいものとし、ご自分の恵みをあなたに与えてくださっているのである。

あなたは心配をする必要はない。あなたが十字架にかけられる特別な時があると考えする必要はない。あなたが十字架にかけられるべき時は、今である。毎日、毎時間、自我は死ななければならない。自我が十字架にかけられなければならない。そうすれば、神の民にテストがおとずれるとき、神の永遠のみ腕があなたを囲む。神の天使たちが周りを囲む火の壁となり、あなたを救出する。

そのときにあなたが自らを十字架にかけても、何の役にも立たない。それは、魂の運命が決定される前になされなければならない。自己が十字架にかけられるべき時は、今である。なすべき働きがある時である。委ねられているすべての能力がなにかの役に立つ時である。今、わたしたちは器を空にし、徹底的に不純物をきよめなければならない。わたしたちが神の御前において聖なるものとされるべき時は、今である。これは、まさにこの瞬間、わたしたちの働きである。あなたは、何か素晴らしい働きがなされるべき特別な期間を待ってはならない。それは今日である。今日、わたしは自らを神に捧げる。 . .

あなたは今日、明け渡す準備ができているだろうか。あなたは、自分の罪を認めるなら、直ちに今、その罪を捨てなければならない。 . . . 徐々に罪を克服しようと余裕を持ってはならない。あなたは少しずつ罪をやめようとしている。今、今日という日のうちに、招きに注意を払いなさい。あなたの心を頑なにしてはならない。

ああ、わが魂よ、今日、呪われている物を、捨てないであろうか。罪がわたしの主を十字架につけたのである。嫌悪をいだいて罪に背を向けないであろうか。キリストが愛したものを愛し、キリストが憎まれたものを憎まないであろうか。このお方は、あなたのために十分な備えをして下さった。それはあなたが、ご自分を通して、ますます、しかり、勝ち得てあまりある者となることができるためである。』¹⁴

結論

「わたしたちの時間は貴重である。将来の不死の命のための準備をすることができる恩恵期間はわずか、ほんのわずかである。わたしたちは、場当たりの行動をとっている時間はない。神のみ言葉の表面のみをすくうことを恐れなさい。』¹⁵

主イエスが常に、あなたの生活を導いてくださり、あなたを現代の貴重な真理を担う人にして下さいますように。そして、主があなたを豊かに祝福して下さいますように！アーメン。

参照:

1. 各時代の争闘下巻222
2. 教会への証5, pp.206,207.
3. キリストの実物教訓106
4. セレクト・メッセージ 1巻240,241.
5. 同上2巻394
6. 教会への証6巻60
7. 同上
8. レビュー・アント・ヘラルド 1885年8月18日
9. 各時代の争闘下巻93
10. 伝道190.
11. セレクト・メッセージ .1, p.363.
12. 預言の霊4巻422
13. レビュー・アント・ヘラルド 1889年11月5日
14. 上を仰いで283.
15. 教会への証6巻407

健康になって、世を癒すべき時

サムエル・アンデレス著 — フィリピン

親愛なる兄弟姉妹よ、わたしたちは、苦しみ、不幸、死に満ち溢れる歴史上の最後の時代に生存しています。しかし、わたしたちは、この世を癒すお方であるキリストのようになることを目指しています。この目的は、どのようにすれば実現できるでしょうか。

主の使者が復活に関する光景を見て説明しているように「洪水の前に生存していた人々は、巨人のような体つきであり、現在、地上で暮らしている人々よりも2倍ほど背が高く、体の均整がとれていた。洪水の後の世代の人々の身長はより低い。その後の世代が続いていく中、後の世代の人々の体は低下し続け、現在に至っている。地上に生きた最初の悪人たちとこの最後の世代の悪人たちは対照的であり、その差は大きい。最初の悪人たちの体は大きく、均整がとれていた－最後の世代の人々の体は矮小化し、弱くなり、歪んだ。」¹

人類全体が弱くなったため、低下したのは、身体的な姿だけではありませんでした。わたしたちの体の健康状態および道徳も低下しました。そのため、わたしたちが人類の創造の際に与えられた祝福を享受し、その祝福を他の人々に及ぼすことができるようになるためには、わたしたちの存在全体が癒しを必要としています。

本来のご計画

人類が不幸な状態に陥ることは、神のご計画ではありません。なぜなら、「神は初め、人を全くきよく幸福なものにお造りになった。そして、この美しい地球が創造主のみ手に造られた時には、一点の衰えのきざしものろいの影もなかった。愛の律法である神の律法を人が犯したために、死と悩みが生じたのである。」²

もし、わたしたちの最初の両親が罪をおかしていなかったのであれば、わたしたちがどれだけ高い水準へと成長し得たかについて想像することすらできません。「神の御目的は、人が長く生きれば生きるほど、ますます、はっきりと神のみかたちをあらわすこと、すなわちなおいっそう明らかに創造主の栄光を反映することであった。人間のあらゆる才能は発達することが可能であって、それらの才能の能力と活力はたえず増大することになっていた。そうした才能を働かせるために、広い機会が与えられ、研究のために輝かしい分野が開かれていた。…アダムが、創造された目的を十分に果たせば果たすほど、創造主の栄光は、

ますますはっきり反映されたであろう。

しかし、不従順のために、この特権は失われた。罪のために神のみかたちは傷つけられ、ほとんど消えてなくなるばかりとなった。人の体力は弱くなり、知的な能力は低下し、な眼はくもった。人間は死ななければならぬ身となった。」³

罪によって病気にかかった体、思い、魂を癒すことが、神の民の働きとなるべきです。罪がこの世にもたらしたあらゆる病気を癒すよう、わたしたちは召されています。この目的において、キリストはわたしたちの模範であります。

「イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった」（マタイ4:23）。そのため、癒しには二つの目的があります－道徳的および身体的なものです。もし、いずれかが癒されていないのであれば、本当の回復はないのです。「品性における美点は、思いと体が正しく機能することに依存している。」⁴

キリストのみ働き

キリストのみ働きの目的は、人々が陥った罪の中から彼らを贖うことです。「人間の姿を創造主のみかたちへ回復し、最初に創造された時の完全な状態へ戻し、身体、思い、魂の成長を促し、これらによって創造における神聖な目的を実現することである－これが、救いの働きであった。…

それは人間の全て－魂同様、身体、思い－において神のみかたちが回復されることを意味した。

人類を創造された神のご目的が実現されるように、人の中に創造主のみかたちを回復し、人を創造当初の完全な姿にもどし、知、徳、体の発達を促すこと、これが救済の働きとなるべきであった。」⁵

神のみかたちの回復とは、身体、思い、魂の癒しです。これが、キリストの地上に来られたときのみ働きでした。すなわち、身体の病気を癒すばかりでなく、罪の病気から人々を清めることでした。身体的な病気は、罪と密接に関係していることを覚えましょう。病気を癒すにあたり、キリストは魂を癒されました。キリストが地上におられた時、これがこのお方の使命でした。預言者イザヤは、イエスがナザレにおいて宣言なさることについてあらかじめ次のように述べました。「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ

伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ」(イザヤ61:1)。

「イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。」(マタイ4:23)。実に聖書において、次のような素晴らしい記録があります。「神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやしながら、巡回されました」(使徒行伝10:38)。

「わたしたちの主イエス・キリストは人類の必要に応じられるために倦むことのないしもべとしてこの世においでになった。彼は人類のすべての必要に奉仕なさるために、『わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負』われた(マタイ8:17)。すなわち、病気の重荷とあわれな状態と罪を除くために、キリストはこられたのである。人類を完全に回復することが彼の使命であった。彼は、健康と平安と完全な品性を与えるためにおいでになったのである。」⁶

わたしたちの働き

「キリストは、わたしたちの模範であられる。キリストは良い働きをしながら巡回された。このお方は人々を祝福するために生きられた。愛が、キリストの全ての行動をうるわしく、高尚なものとした。」⁷ キリストは、前述のようにわたしたちの模範であるだけでなく、このお方のみ働きが、わたしたちの働きです。すなわち、「人間に完全な回復をもたらす」ことであり、また人々に対して「健康、平安、完全な品性」を与えることです。

「人類を完全に回復することが彼の使命であった。彼は、健康と平安と完全な品性を与えるためにおいでになったのである。」⁸

「キリストの働きの方法を学ばなければならない。」そして、「キリストが、常に受けておられた教えを語られたときに、キリストの中に宿った同じ聖霊」を覚えているべきです。「これが、彼らの知識の源であり、救い主の働きを世界中で推進する能力の秘訣」なのです。⁹

「人類を創造された神の御目的が実現されるように、人の中に創造主のみかたちを回復し、人を創造当初の完全な姿にもどし、知、徳、体の発達を促すこと、これが救済の働きとなるべきであった。これが教育の目的であり、人生の大目的である。」¹⁰

全世界において福音を伝えるという使命には、病気を癒すということを含まれています—そして、イエスが与えてくださった保証は、世の終わりまでわたしたちと共にあるのです(マタイ

28:2参照)。使徒たちの体験は、栄光に満ちたものでした。同じ任務が、地上の最後の時代に生存しているわたしたちにまで及んでいます。そして、わたしたちがこの祝福された任務を実行する準備ができたならば、その結果は、より広範囲で、より栄光に満ちたものとなります。

この時点において、わたしたちは、人類の歴史の最後の時代の瀬戸際に生きているため、わたしたちに残された時間は多くありません。主は、無頓着な個人個人のためにご自分の時をこれ以上引き延ばされることはありません。主には、他の人々がいます。もし、他の人にとって代わられなくては、自分の召しと選びを確かなものにしましょう。教会として、個人として、わたしたちの主たる懸念事項は、自らとわたしたちの民を準備させることです。**準備、準備、また準備です。**

完全なメッセージ

そうです、今はまさに、人々が健康になり、この世を癒すべき時です。みな、自分が持っていない物を他の人々に与えることはできないことを理解しています。つまり出て行って癒しを人々にもたらす前に、まずわたしたちが健康になる必要があります。前述の通り、わたしたちの病気は単なる身体的なものではなく、むしろ身体的かつ道徳的の両方です。そのため、今こそ、これに対して手を打つべきです！わたしたちは、健康な最初の人になるべきであって、最後になるべきではありません。なぜなら、わたしたちには非常に多くの光が与えられており、多くの利点があるからです。

まず第一に、わたしたちには、まさにその目的のための三天使のメッセージがあります。主の使者は、信仰による義がまさに「第三天使のメッセージそのものである」と述べています。¹¹ わたしたちは、第三天使のメッセージの擁護者です。それは何でしょうか？信仰による義認であり、それは、「神のすべての戒めに対する従順のうちに表されたキリストの義を受けるようにと民を招」きました¹² わたしたちがキリストの義を受けるとき、それは、わたしたちが神の律法の全てに服従することに現われます。このメッセージは、人々に身体的な病を生じさせた罪の病気に対する答えです。「神は、このメッセージを全世界に伝えるようお命じになった。これが第三天使のメッセージであり、大いなる叫びによって宣言されるものであり、多大な聖霊の降下を伴うものである。」¹³

それから、わたしたちには健康改革のメッセージがあります。主は、このメッセージをわたしたちに伝えるために、主の使者に幻をお与えになりました。彼女は次のように回想しています。「1863年6月に、ミシガンのオチゴにあるわたしたちの兄弟A.ヒラード氏の自宅において、偉大な健康改革という主題が幻の

うちにわたしの前に開かれた。」¹⁴ なぜ、健康改革が与えられたのでしょうか？それは神の民の恩恵のためであり、また彼らが他の人々に伝えるためです。「神が健康改革を与えて下さった目的は、わたしたちの救いと世の救いである。」¹⁵ わたしたちこそ、まず健康改革の原則を実行に移し、その後、それをこの世の他の人々と共有すべきです。病気は、クリスチャン品性の形成に対する大きな障害です。

「心と魂は、肉体を通して表現されるのであるから、知的また霊的な力は肉体の力と活動によっておおいに左右される。肉体の健康を増進するものはすべて強い精神と均斉のとれた品性の発達を助長する。人は健康でなければ、自分自身に対する義務を、また人類同胞に対する義務と創造主に対する義務を、はっきり理解することも完全に果たすこともできない。したがって健康は品性と同様に保護されねばならない。」¹⁶

わたしたちは、時に混乱します。キリストのみかたちを人のうちに回復し、クリスチャンの品性を完成させることにおいて、信仰による義認—あるいは信仰による義—と健康改革のメッセージにはどのようなつながりがあるのでしょうか？わたしたちには、この質問に対する明確な啓示があります。信仰による義認のメッセージは、人生において新しい方向へ向けさせるための思いと心の改心です。「新しい思想、新しい感情、新しい動機が植えつけられる。キリストの生涯が、新しい品性の標準になる。」¹⁷

「義認は、完全に恵みによるものである。」¹⁸ 「キリストの恵みがなくては、罪人は望みがない状態にある。彼のために行うことは何もない。しかし、神聖な恵みを通じて、超自然的な力が人に与えられ、思いと心と品性のうちに働くのである。」¹⁹

健康改革のメッセージは、今度は、人の性質における強い動物的な傾向を減じ、その代わりに品性の完全に向かってわたしたちの道徳的な決断を強化するという目的があります。

これは、どのようにわたしたちの食物の準備に影響を及ぼすべきか？

「多くの母親たちは数多く存在している不節制について嘆いているが、その原因を十分深く探っていない。彼女たちは日々多数の料理と香辛料を沢山含んだ料理を作っており、それらは食欲を誘い、食べすぎをもたらす。わたしたちの…民の食卓には、アルコール中毒者を多数作り出す者が用意される。多くの人が食欲によって支配されている。あまりに頻繁に食し、健康的でない食物に対する食欲に溺れる人は、正しい食習慣への傾向を強める度合いに従って、やかましく要求する食欲や他の面における情欲に抵抗する力を弱めているので

ある。母親たちは、良い品性をもった子供たちをもって社会に資するという神と世に対する責任をより強く認識する必要がある。」²⁰

「人々が健康の主題について語られると、彼らは度々『わたしたちは実行しているよりはるかに知っている』と述べる。しかし、彼らは、身体的な健康に関する全ての光について責任を負っていること、また彼らのすべての習慣は、神の綿密な調査の前にあらわであることを認識していない。身体的な命は場当たり的に扱われるべきではない。存在のすべての器官や繊維は、神聖に有害な習慣から守られるべきである。」²¹

「神は健康改革について偉大な光を与えて下さった。彼はその光を尊重することを求めておられる。神が光を送られたのは、その民によって拒絶されたり、無視されたりするためではない。その結果に必ず苦しむことになる。」²²

悲しいことに「男女は、健康に関する原則に従って生きないために、道徳的な力が弱められている。」²³

メッセージに生きることを学ぶ

「健康改革に関する主題が教会内で示されてきたが、その光は心から受け入れられてきたわけではなかった。利己的で健康を破壊する男女の放縦が、人々を神の大いなる日のために準備させるべきメッセージの感化力を打ち消してきた。もし、教会が力をもつことを望むのであれば、彼らは、神から与えられた真理に生きなければならない。もし、教会員がこの主題に関する光を軽視するならば、彼らは、霊的、身体的の両方における低下という確かな結果を受けることになる。そして、これらの昔からの教会員たちのそのような影響力は新たに教会に加わった教会員を徐々に変える。主が今日、多くの魂を真理へと導かれたいのは、一度も改心したことがない教会員やかつては改心したが、背教した人々のゆえである。これらの献身していない教会員たちは、どのような感化を新しい改心者たちに及ぼしているであろうか。彼らは神の民が担うべき神から与えられたメッセージを無効にしてはいないだろうか。

すべての人は、自分自身にはっきり害を及ぼす習慣にふけてはいないかを吟味すべきである。彼らは、飲食において不健康な満足を捨てるべきである。ある人々は、よりよい気候を求めて遠い国へ出て行く。しかし、彼らがどの国に行こうと、彼らの胃袋は病的な大気をもたらす。彼らは自分自身に災いをもたらすが、他の人々はそれをやわらげることができない。彼らは日々の生活習慣を自然の法則と調和させる必要がある。そして、信じるのと同様行うことによって、魂と体のまわりに命から命へ至らせる香りとなる大気が造られるのである。

「兄弟がたよ、わたしたちは非常に遅れている。生きた教会

になるためになすべき多くの事柄が実践されていません。多くの人々がゆがんだ食欲にふけることにより、自らを、魂の最高の利益に対して絶えず戦いをいどむような健康状態に置いている。真理が明らかに提示されているにもかかわらず、受け入れられていない。わたしは、この主題を全ての教会員の前に提示したい。わたしたちの習慣は、神の意志へと一致させられなければならない。わたしたちには『あなたがたのうちに働きかけ…るのは神であ』という保証があるが、人間は、食欲と情欲を支配することにおいて、自分の役割を果たさなければならない。宗教的な生活は、神聖な力と調和した思いと心の活動を求める。人は自分自身の救いを達成することはできず、また神は人の協力がなければ、人のためにこの働きをなすことがおできにならない。しかし、人が真剣に働くとき、神は人に協力し、神の子となる力を授けて下さる。』²⁴

わたしたちが健康に関する法則をおかすなら、わたしたちの破滅はたしかであることをサタンは知っています。しかし、もしわたしたちが神の健康改革に従うならば、敵による誘惑に対してもっと容易に打ち勝つことができます。「もし、食欲や感情が人を支配するならば、体の健康と知的な能力は自己満足という祭壇の上に犠牲にされ、その人はすみやかに破滅へ導かれることを魂の大敵は知っている。もし啓発された知力が手綱を握り、動物的な傾向を支配し、それらを道徳的な力に服させるならば、サタンは自分の誘惑をもって打ち勝つ力は非常に弱まるということを知っている。』²⁵

そのため、わたしたちが自分の道をより完全につながりやすいものとするためには、健康改革に従う必要があります。義認と健康改革のメッセージの組み合わせをもって、わたしたちが誠実にそれらによって生きるなら、勝利はわたしたちのもです。

「キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに」、わたしたちがわたしたちの主の足下に連れてきた人々と共に「彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。』²⁶

結論

「主はご自分の民を通して正しい原則に従う結果を示すことにより、サタンの告発に答えることを望んでおられる。主は、わたしたちの健康の施設が真理に関する証人となることを望んでおられる。習慣、食欲、感情の改革を通じて人を回復させることによって、最後の時代に実行されなければならない働きに性質を与えるべきである。セブンスデー・アドベンチストたちは、神がわたしたちに与えて下さった健康改革の進んだ諸原則によって、この世に対する代表者となるべきである。』²⁷

最後に、兄弟がたよ、わたしたちには果たすべき非常に厳

粛な使命があります。すなわち、わたしたちの最初の両親が墮落して以来、人類を汚染してきた病気による死の病毒から世に伝道し、癒すことです。わたしたちの祈りは次であるべきです、「どうか、神がわれらをあわれみ、われらを祝福し、そのみ顔をわれらの上に照されるように。これはあなたの道があまねく地に知られ、あなたの救の力がもろもろの国民のうちに知られるためです」（詩篇67:1,2）。教会は、主がこの世を救うために用いられる代理人です。しかし、教会自身が癒され健康にならない限り、その使命を果たすことはできません。そのため、わたしは、この世における全ての教会員（セブンスデー・アドベンチスト改革運動）に対して次の点を訴えたいと思います。わたしたちは自分たちの生活を完全に神に捧げ、主がわたしたち一人一人と教会を癒してくださいよう求めましょう。95年を越えるわたしたちの経験がありながら、いまだわたしたちは使命を達成していません。そして、わたしたちはすでに荒野における40年という期間の倍を越えているのです！しかし、まだ遅すぎはしません。目をさましましょう！今こそ、健康になりこの世を癒すときです！

参照:

1. 霊的賜物3巻84
2. キリストへの道2
3. 教育4, 5
4. 健康についての勧告505
5. 教育5
6. ミストリー・オブ・ヒーリング 3
7. 教会への証2, p. 136.
8. ミストリー・オブ・ヒーリング 3
9. 患難から栄光へ下巻46
10. 教育5
11. 伝道190
12. 同上
13. 同上191
14. セレクトド・メッセージ . 3, p. 276.
15. 教会への証7巻136
16. 家庭の教育386, 387
17. キリストの実物教訓73
18. 信仰と行い20
19. 同上100
20. 教会への証3巻563
21. 同上6巻372
22. 同上3巻311
23. クリスマン教育10
24. 教会への証6巻370, 371
25. 争闘58
26. キリストの実物教訓47
27. 医事伝道187

終わりの出来事のために準備すべき時... 一致し、共に働くために

ゲナディ・ラブリク著 — ウクライナ

終わりは近い！

「今日、時のしるしは、われわれが重大で厳粛な事件の門口に立っていることを告げている。われわれの世界のすべてのものは動揺している。再臨に先立って起こる出来事に関する救い主の預言が、われわれの眼前で成就している。『また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。……民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう』（マタイ24:6, 7)。

現代はすべての人間にとって、圧倒的に興味深い時である。統治者や政治家たち、信頼と権威の座を占める人々、各階層の識者たちは、われわれの周りに起こっている出来事に注意を集中している。彼らは国家間の関係を見守っている。彼らは地上の勢力が緊張度を増しているのを観察する。そして彼らは、重大で決定的な何事かが起ころうとしており、今や世界は、驚くべき危機の瀬戸際に立っているのを認めるのである。

こうした事柄については、聖書、そして聖書だけが、その正しい見解を示しているのである。ここにわれわれの世界の歴史の、大いなる最後の光景が示されている。その出来事はすでにその影を投げ、接近する音は地を震わせ、人の心を恐怖におののかせている。』¹

人類は、この世の最後を恐れています。多くの国々や文化において、歴史上、古い仕組みが崩壊し、その後には裕福で繁栄した時代が訪れる、あるいは、逆に地上の生き物が全て死に絶え、地球という惑星が崩壊する瞬間を定義した観念が存在しています。

スピッツベルゲン諸島の世界種子貯蔵庫や人工知能(AI)、地下要塞—これらの物は、世界の終末において、人類（あるいは人類を代表する特定の人々）を救うために必要であると信じられています。幸いなことに、キリストを信じる人々には神のみ言葉があり、そのため、彼らは、キリストの再臨を待っている人々にとって最後の最終事件のための準備には一切、救いのための地下都市、箱舟、その他の物質的な手段は含まれていません。聖書および聖霊により、わたしたちは、それらの物が最後の危機に耐えうるものではないことを知っています。

わたしたちは、どのようにすれば、最後の試練を通過することができるのでしょうか？ わたしたちは、「この世の最後の時」が到

来する時に、どのようにすれば固く立つことができるのでしょうか？ 地上における最後の世代の責任は何でしょうか。誠実なクリスチャンは、これらの質問に対する答えを見いだしているため、注意を怠ることはありません（ルカ12:45, 46参照）。反対に、次の警告、「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」（マルコ13:33）が常に思いの中に鳴り響き、そのクリスチャンの人生と行動に影響を与えます！

これは単なる宣言、説教壇で発せられる大声の自慢、霊的な集会における嘆願ではありません。そうではなく、靈感による筆は、次のように説明しています。

「キリストを告白するためには、わたしたちは告白すべきキリストを有していなければならない。キリストの考えや精神がその人の中に存在していない限り、その人はキリストについて真に告白をすることはできない。もし、信心のかたちや真理の認識が、つねにキリストを告白するものであれば、わたしたちは次のように言うことができる、命に至る道は広く、それを見いだすものは多い、と。わたしたちは、何がキリストを告白することであるのか、またどのようにして自分たちがキリストを拒絶するのかを理解しなければなりません。わたしたちは、口先でキリストを告白しつつ、行動においてキリストを拒絶することが可能である。人生において現れる聖霊の実こそ、キリストの告白である。もし、わたしたちがキリストのために全てを犠牲にするならば、わたしたちの生活はつつましいものとなり、会話は天のものとなり、わたしたちのふるまいは非の打ち所のないものとなる。真理の力強い清める感化力、また生活におけるキリストのご品性が、このお方の告白である。もし、永遠の命のみ言葉がわたしたちの心の中にまかれるならば、その実は義と平安である。安逸の愛や自己愛にふけることによって、からかいや冗談を言うことによって、世の誉れを求めることによって、わたしたちは生活においてキリストを否定するかもしれない。わたしたちは、世に順応することによって、また誇りたかく高価な服装によって、外に現われる外見においてこのお方を否定するかもしれない。常に注意し、辛抱し、そしてほとんど耐えることのない祈りによってのみ、わたしたちは生活にキリストのご品性、あるいは真理の聖化する感化力を表すことができる。多くの人々は、短気や感情的な精神によって、キリストを家庭の外に追い出してしまふ。このような

人々は、この面において克服すべきことがある。」²

クリスチャン品性

クリスチャンの品性のみが永遠に存続するものであり、その人が死んだ後も存続します。「またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』」。御霊も言う、「しかし、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」（黙示録14:13）。「善行によって自分の能力を働かせながらクリスチャン品性の発達と完成を求めていた者は、そのまいたものをきたるべき世界で刈り取る。」³

「神が価値をお認めになるのは、道徳的な価値である。キリストのみ前では、欲望によって汚されていないクリスチャンとしての品性、つつましさ、柔和さ、謙遜は、最も純粋な金よりも貴重であり、オフルの金よりも貴重である。」⁴

わたしたちの品性の形成を失敗させるために人々の敵が利用する手段はすべて揃っています。神のみ言葉は、この点について、次のように明らかにしています。「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである」（ヨハネ第一2:16）。肉による働きはガラテヤ5章に列挙されており、それらの他にもわたしたちの霊性にとって危険な多くの習慣、傾向、愛着が記されています。残念なことに、わたしたちはクリスチャンとして、これらの戦いにおいて、偉大な成功を治めたと自慢することはできません…

「だれも、これらの点において自らの魂を欺いてはならない。もし、あなたが誇り、自尊心、最上位への憧れ、虚栄、神聖でない野心、つぶやき、不満、辛辣さ、悪口、嘘、欺瞞、中傷を心に抱くなら、あなたの心の中にキリストは宿っておられず、あなたにはイエス・キリストではなく、サタンの性質と思想があるという証拠を示す。イエス・キリストは柔和で心のへりくだったお方であった。あなたは、永遠に存続するクリスチャン品性を持たなければならぬ。」⁵

嵐の時の安全

あるとき、小さい漁船が嵐に巻き込まれました。通常、嵐は予想外に発生しますが、その時もそうでした。強い嵐と大波がその船に打ちつけました。船の中にいた人たちは自分の命のために格闘していましたが、彼らの試みは効果がありませんでした。何一つ、彼らを助けることはできませんでした、ただ彼らが船尾で寝ておられたイエスを思い出すまでは。「主よ、わたしたちは死にそうです！」—彼らは必死に大声で叫び、その嵐にまさる大声を出そうとしました—「わたしたちを救ってください！」。キリストは、彼に救いを求める人々を決して追い返したりなさいません。しかし、弟子たちは、キリストのご臨在の意味を理解し

ていたでしょうか？キリストと共に船の上で死ぬということはありませんということに彼らは理解していたでしょうか？唯一の問題は、彼らの注意が嵐に向けられており、キリストには向けられていなかったということでした。嵐を静めるためにキリストが行われたことはただこれだけでした。「イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、『静まれ、黙れ』と言われると、風はやんで、大なぎになった」（マルコ4:39）。

実際、わたしたちのうち一人として将来の嵐のための準備ができている人はいません。そしてだれもその嵐がどのようなものであるかを知らないのです。最もよく準備している聖徒でさえ、その嵐に耐えるためには何が必要であるかを想像できません。そして、弟子たちがガリラヤの海の嵐を静めることができなかつたように、神の子らもまもなくわたしたちの星を飲み込もうとしている嵐を静めることはできません。ただキリストだけがそうすることができるのです！もし、わたしたちが忘れなければ、キリストはその船の中におられます。このお方のご臨在にあっては、全てが違います。このお方がおられなければわたしたちは滅びますが、このお方は嵐を静め、恐怖を取り去ることがおできになります。わたしたちは、嵐を見るのではなく、キリストを見ましょう！

急ぐことと停滞すること

これらの反対の意味を持つ行動がわたしたちの実生活において、同時に存在している場合があります。現代のわたしたちは皆、急いでいます…わたしたちはあらゆることをもっと早くしようとせき立て、多くの場所を訪れようと走り回り、急いで多くの問題を解決しようとします。人々は急いで食事をし、急いで結婚し、急いで生きて、急いで死ぬのです。…お葬式でさえ、毎年、短くなっています！

「働き、急ぎ、せき立てることが常態化している。そして彼らの強い世俗性は、その子どもに、教会に、そして世に、型となる感化力を及ぼしてきた。世を責めるのは義のうちに真理を擁している人々の模範である。」⁶

何も考えずに急いでいる人々は、タクシーに乗り込み、運転手に行き先を伝えるかわりに、「進め」と叫び、車が走り出すようなものです。しかし、どこへ向かうのでしょうか？だれも住所を知らないのです！この世は、急いでどこへ向かっているのでしょうか？なぜ、わたしたちはこれほど急いでいるのでしょうか？預言者ゼパニヤは次のように述べています。「主の大きい日は近い、近づいて、すみやかに来る。主の日の声は耳にいたい。そこに、勇士もいたく叫ぶ」（ゼパニヤ1:14）。

「神の民は、警告を心に留め、時のしるしを見極めなければならない。キリストの再臨の印は、あまりにも明確であり、疑いの余地がない。そしてこれらのことを考慮し、真理を信じると公言するすべての人は、生きた説教者となるべきである。神は、すべての人に説教者も民も、目覚めるように呼びかけておられ

る。全天がざわめいている。地上歴史の場面は、速やかに幕を閉じようとしている。わたしたちは、最後の時代における危機の真ただ中にいる。さらに大きい危機がわたしたちの目前に迫っているにもかかわらず、わたしたちは目覚めていない。この活動と神のみ事業における真剣さの欠如は恐ろしい。」⁷

前の段落の中の最後の一文に注目してください。わたしたちはいつも急いでいますが、わたしたちの魂の救いの働きにおいては、活動と熱心さは欠如しているのです！これは著しい対照です！この世の事柄においては、熱意、スピード、光のような反応がありますが、霊的な生活においては、わたしたちにあたかもさらに7つの人生があり、そのように急いで行く場所が全くないかのようです。聖書は、ソドムにおけるロトのように、わたしたちには「ぐずぐずしている時間はない」ということを警告しています。「延ばさないように気をつけよう。罪を捨てることを延ばし、イエスによって心をきよめていただくことを遅らせてはならない。この点で幾千という人が誤り、永久に滅びてしまった。私は今にも人生の短いことや、はかないことを言おうとはしないが、ここに人の気づかない恐ろしい危険がある。それは、神のみたまのささやきに従うことを延ばし罪の生活を続けていくという恐ろしい危険である。これは実に恐ろしいことである。たとえどんなに小さくても、罪にふけることは、永遠に失われる危険をおかしているのである。**わたしたちが打ち勝たないものは、わたしたちを打ち破り、ついにわたしたちを滅びに至らせる。**」⁸

わたしたちと主の個人的な関係、誠実な悔い改め、心を開いて自分の罪を告白すること—わたしたちがこれらの事柄について活動的でない限り、わたしたちは、イエスの再臨の時にお会いする準備ができていないのです。

一致すべき時

最後の厳粛な出来事のために教会とその個々の教会員が準備できているかを決める重要な要素は、一致する能力、もしくは願いです。

「兄弟がたよ、人間の体制の様々なメンバーが皆、組織全体として一致し、各自が全体を統括する知的存在に従って自分の役割を遂行するように、キリストの教会員も一つの均整の取れた体組織として一致し、その体全体の聖化された知的存在に従うべきである。」⁹ しかし、なぜでしょうか？多くのクリスチャンは、自分たちは神と個人的な関係を持っているから、そのようなことは必要がない、そして他には何もいらないと考えます。人間は、他の人から完全に独立したまま救われることができるのでしょうか？例外的な事例においては—その通りです。しかし、あらゆる時代において、イエスはこの地上に組織された教会を持ってこられました。

かつて採掘場を訪ねたとき、角を丸くされた多くの石がきれいに積み重ねられているのに注目しました。どのようにして、石

造りの職人は、これほど綺麗に角を丸くすることができるのだろうか？と驚きました。どうやってこれらの石は丸くなったのでしょうか？その職人は、わたしに製造工程を教えてくださいました。それは非常に単純なものでした。彼らは、大きな長方形の石を持ってきて、それを大きな樽の中に投入します。その樽は、特別な機械の助けを得て一日中回転します。摩擦の結果、角の荒さが取られて石は綺麗な丸みを帯びます。靈感の筆は次のように記述しています。「わたしたちは、神の作業場の中にいる。わたしたちの多くは、採石場で採掘された粗い石である。しかし、わたしたちは、神の真理をつかむことにより、その真理の影響力がわたしたちに及ぶ。その真理は、わたしたちを高め、わたしたちの中から、どのような性質のものであろうと全ての不完全さと罪を取り除く。それにより、わたしたちは王をその麗しさのうちに見る準備ができ、ついには栄光の王国において純粋な天使たちと一致することができるようになる。その働きがわたしたちのためになしとげられるべき場所は、ここである。ここで、わたしたちの体と霊は、不死にふさわしいものとされなければならない。」¹⁰

真理のうちに一致する

ヨハネ17章21-23において、キリストはご自分の御父に、ご自分の弟子たちの間における一致を求めて熱心な祈りを口にしておられます。わたしたちの時代において、この祈りは、どのようなかたちで実現されるのでしょうか？主の使者は次のように述べています。「わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教団の信仰をぐらつかせようとする人々には、目もくれないのを示された。神は彼らをごらんになってよみしたもうた。

わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使はこう言った、『このメッセージをすこしでも変える者はわざわいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、この使命をどう受け入れるかにかかっている』と。

わたしは、ふたたび三重のメッセージを示され、神の民がどんなに高い代価を払ってその経験を得たかを示された。それは多大な苦難とはげしい戦いを経て得られたものだった。神は彼らを一步一步導いて、ついに彼らを動くことのない堅い土台の上に置かれたのだ。わたしは、各人がこの土台にやってきて、その基礎を調べるのを見た。ある者は、よろこんですぐにそこにとびのった。ある者は、この基礎の欠点をさがしはじめた。かれらは、この基礎に手を加えて、土台をもっと完全にし、人々をもっと幸福にしようと望んだ。

ある者は土台からとび降りて調べ、置き方がちがっていると公言した。しかしわたしは、ほとんどすべての者が土台の上をしっかり立って、台からとび降りた人たちに向かって、土台を作ら

れたのは神なのだから、文句を言うのをやめるように、そうでないと神と戦っていることになるのだと説きすすめているを見た。彼らは、自分たちが神のふしぎな働きによってこの堅固な土台にみちびかれてきた次第をくわしく語り、いっせいに目を天へあげて大きな声で神を賛美した。文句を言って台からとび降りた人々の中には、これに影響されて、謙そんな面持ちで、もう一度とびのる者も幾人かあった。」¹¹

一致させる要素としての安息日

「安息日は教育の一つの手段としての測り知ることのできない価値をもっている。神がわれわれのどんなものを要求なさろうとも、神はそれをご自身の栄光で豊かにし、形をかえて、ふたたびわれわれの手に戻してくださるのである。……

安息日と家庭は同じようにエデンにおいて定められ、神の目的の中にあって切っても切れない密接なつながりを持っている。この日には他の日よりも特にエデンの生活を送ることができる。家族の者たちが、父親を家庭の祭司とし、また、父と母とを、子供たちの先生とし友達として、働きに勉強に礼拝にレクリエーションに、ともに交わることが神のご計画であった。しかし、罪の結果、生活事情は一変し、この交わりはおおかた妨げられてしまった。父親は一週の間子供たちの顔をほとんど見ないことが多い。父親が子供たちの相手をしたり子供たちに教えたりする機会は全然ないと言ってもよい。しかし、神の愛によって、労働の必要は制限されている。安息日の上には神は慈愛の御手を置かれている。神は、ご自身の日に、家族の者が神と交わり、自然と交わり、またお互いに交わる機会を保存されている。」¹²

今がその時！

ネヘミヤ書には、神のみ働きにおけるすばらしい協働の記述があります。今日、わたしたちは追放されたユダヤ人の体験から学ぶべきことがあります。

1. 目標は人々を一つにします。ネヘミヤは次のように訴えました。「あなたがたの見るとおり、われわれは難局にある。エルサレムは荒廃し、その門は火に焼かれた。さあ、われわれは再び世のはずかしめを受けることのないように、エルサレムの城壁を築こう」（ネヘミヤ2:17）。さらに中間的な目標（例えば、教会の建設、異なる施設の設立）だけでなく、神の民には、一つの究極の全般的な目標があります－それは、イエスにお会いする準備をすることです！これが、まず何よりも、イエスの再臨を待つ人々を一体にするべきです。

2. 多様な人々が目標を達成するために一体になりました。ネヘミヤ第3章においては、城壁の回復においては、祭司、支配者、レビ人、商人、金細工職人、門番－すなわち、あらゆる社会的地位、霊的な地位にある人々－がいました。今日に

おいても、同様です。「働きの価値を決定するのは、働き自体の偉大さではなく、その働きの動機、その働きを行う際の愛である。」¹³

3. 目標と一致が存在している場合でも、それに反対する者がいることでしょう。「その次にテコアびとらが修理したが、その貴人たちはその主の工事に服さなかった」（ネヘミヤ3:5）。城壁の建築者たちに対してサンバラテが、神のために働く彼らの働きは無駄だとあざけったように、神のための働きを周りであざける人がいることでしょう（ネヘミヤ4:1-3参照）。

4. 最も高い目標は、霊性です。ネヘミヤ第8章に、律法の書をイスラエル人に読み聞かせる聖化させる感化力について素晴らしい記述があります。今や真理につぐ真理がイスラエルに明示されてきました。「水の門の前にある広場で、あけぼのから正午まで、男女および悟ることのできる人々の前でこれを読んだ。**民はみな律法の書に耳を傾けた**」（ネヘミヤ8:3〔強調付加〕）。

親愛なる兄弟姉妹がた、神の民は今日、この同じ道をたどることができるでしょうか？わたしたちの使命を理解し、へりくだりと悔い改めのうちに、コミュニケーションと許しを持って一致し、改革しましょう。昼の間に一致し、共に働く可能性と願いを、主がわたしたちに与えて下さいますように！

参照:

1. 国と指導者下巻144
2. 教会への証1巻303, 304
3. 祝福の山102
4. 教会への証1巻538
5. 牧師への証441
6. 教会への証4巻434
7. 同上1巻 260, 261
8. キリストへの道38〔強調付加〕
9. 教会への証4巻16
10. 同上2巻355
11. 生き残る人々433, 434
12. 家庭の教育583,584
13. 教会への証5巻279

活発な伝道者となるべき時

ガテラ・シルヴァン著 — ルワンダ

序文

「われわれはみなイエスの証人となるべきである。社交的な能力は、キリストの恵みにきよめられて、魂を救い主にみちびくに活用されなければならない。われわれは自分自身の利害問題に利己的に没頭しているのではなく、われわれの祝福と特権とを他人にわけ与えようと願っているのだということを、世の人々に見せよう。われわれの宗教はわれわれを非情にしたり苛酷（かこく）にしたりしないということを世の人々にわからせよう。キリストをみいだしたと言っている者はみな、キリストが人々を益するために働かれたように、奉仕しよう。」¹

信徒として、わたしたちは神のみ言葉を積極的に広めるよう呼びかけられています。機会があればいつでも、明確に、恐れることなく、丁寧に、敬意をもって、また神をわたしたちの生活の中心として敬神の念をもって献身すべきです。それにより、わたしたちは、この世において、相手が自分の家族であっても、外国の見知らぬ人であっても、よりよい変化をもたらすことができます。イエスは、天に昇られる前に、そこにいた弟子たちに対して偉大な使命をお与えになりました。しかし、その使命は、現代のわたしたちにも当てはまります。このお方は、すべての人々を弟子として、全世界に出て行って、贖いの計画の真理を教え、生きるように強く勧めておられます。わたしたちは、メッセージを伝える器にすぎませんが、一人で行動するものではありません。キリストが常にわたしたちと共にいてくださり、ご自身をわたしたちとして表現して下さい。こうして、わたしたちの成功は保証されているのです。

わたしたちの前にある使命

伝道者とは、宗教的な団体のメンバーであり、説き勧めた

り、あるいは伝道奉仕、例えば、教育、技能、社会正義、医療施設、経済的な支援等を行うために、ある地域へ派遣される人である。²

マタイ28:19には、イエスはご自分の権威を偉大な使命に付与され、その権威により、このお方の弟子たちは使命を果たすことができるようになります。イエスは、わたしたちが不活発ではなく、活動的になるよう望んでおられます。**推進力は、地理的であれ何であれ、いかなる境界をも越えて福音をひろめるべきです。**

国際的な伝道に携わるべき理由があります。世界的な規模で福音を深く熱心に宣言する活動に関わらない会衆は、救いの性質を理解していないのです。弟子たちの伝道は、地球の果てにまで及ぶものでした。

エレン・ホワイトは、彼女の著書の中で、わたしたちが魂を救うための働きにおいてなすべきことのうち、1/20も行っていないと書き留めています。³わたしたちは、人々が真理を求めてわたしたちのところへ来るのを待つかわりに、真理を世界中に伝えるために、より徹底したより熱心な努力を払うべき必要性に関して訴えがなされています。

世俗的な意見や写真の代わりに、聖書の真理を伝えるために、ソーシャル・メディアを使用することを含めて、わたしたちが積極的な伝道者となるべき時代が来ています。ソーシャル・メディアは、今日の世界で非常に有用な手段です。なぜなら、グローバル・メディアの奉仕活動は、インターネットが強力な低コストな手段であり、世界中のすべての国へ届き、すべてのクリスチャンを国際的に活躍する伝道者にするることができることを示しているからです。

わたしたちが直面している問題の一つは、伝道者の数が少ないことであり、もう一つの問題は、世界のへき地で伝道をする人が、更に少ないということです。実際のところ、神のメッセージを受けたことのない人々に対して伝道していると報告されている割合は非常に小さく（10%）、ほとんど90%の人々は、

既にメッセージを受けたことがある人々のために働いています。

福音は、全ての人々に伝えられなければなりません。わたしたちは、次のように命じられています。「**全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ**」(マルコ 16:15)。キリストは、弟子たちに対して、様々な方法で出て行くようにとの明確な命令をお与えになりました。まず、神のみ言葉は、イスラエルの失われた羊の間で伝えられましたが、その後、任務は拡大しました。イエスは、このことを命じておられるだけでなく、ご自分の神格において、世界に出て行ってすべての人に福音を宣布するための権威を与えてくださっています。

聖書に書かれている弟子たちのように、わたしたちもまた真理を教えられてきており、こうして次のために送り出されています。

すなわち、

福音を宣べ伝え、

奇跡を行い、

神のみ言葉を確認する

ためです。わたしたちは、外に出て福音を宣べ伝えるべきことが明確に命じられています。

使徒パウロは次のように叫んでいます。「わたしが福音を宣べ伝えても、それは誇にはならない。なぜなら、わたしは、そうせずにはおれないからである。もし福音を宣べ伝えないなら、わたしはわざわざである」(コリント第一9:16)。

神の男女は、個人的に認められるために肩書きを得る目的で、牧師や説教者や安息日学校の教師になるものではありません。知識を分かち、他の人々を導き、彼らが成長する姿を見る祝福で十分です。栄光と報酬は、天の王国において待っています。

「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい」(テモテ第二4:2)。テモテの使命には、主のみ言葉を熱心に求める教会員に対して教えることだけでなく(「時が良くても」)、神のみ言葉を聞く意志がなく、または聞く準備ができていない人々に伝えることも含まれていました(「時が悪くて

も」)。

「時が良くても」の良い例は、人々が真理を伝えるあなたを心から歓迎している時です。「時が悪くても」というのは、公道における説教者や、刑務所における伝道に踏み込む伝道者、あるいは都市部の遊技場における伝道、および**ソーシャル・メディアによる伝道**です。周りにいる人々がおそらく神のみ言葉に関心のない場所では、時が悪くてもということです。

では、わたしたちは、どのように進めるべきでしょうか。わたしたちは、先輩たち—後の世代に対して多大な影響を与えた偉大な教師たち—から多くのことを学ぶことができますし、またイエス・キリストという完全な模範であるお方から学ぶことができます。

キリストは、道であり、真理であり、命であり(ヨハネ 14:6)、わたしたちを愛し、わたしたちのために死なれました。キリストは、わたしたちの語る言葉と、信仰(ヘブル11:1)による実を結ぶわたしたちの生きる生活によって聞くすべての人々に対して、ご自分のみ名を掲げるように、わたしたちに命じておられます。なぜなら、「行いのない信仰も死んだものなのである」(ヤコブ 2:26)。

キリストの時代における教師たちのほとんどは、キリストの宗教の知的な側面に焦点を当てていました。しかし、イエスは、ご自分の聴衆の人全体に対処し、神の側に意志決定をするようお招きになりました(マルコ1:22参照)。イエスは真理をお教えになりました。なぜなら、ご自身が真理であられたからです。

現代においては、あらゆる情報を書籍やインターネットから入手することが出来るため、わたしたちの世代の人々は、学校やインターネットを通じて、命について全てを学ぶことが出来ると考えがちです。しかし、人生において最も素晴らしく、最も価値のある教訓のうちいくつかは、静止画像によってもたらされるのではなく、むしろ、わたしたちよりも長く生きている人々によってもたらされるのです。

「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならない。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならない。わたしは

主である」(レビ記19:32)。わたしたちよりも年上の人々から学ぶことについて、最適な聖句の一つは、詩篇141:5です。「正しい者にいつくしみをもってわたしを打たせ、わたしを責めさせてください。しかし悪しき者の油をわがこうべにそそがせないでください。わが祈は絶えず彼らの悪しきわざに敵しているからです。」この聖句は、わたしたちにとって痛々しく聞こえますね。しかし、わたしたちは皆、ときに矯正される必要があり、わたしたちも例外ではありません。年を重ねることは、年配者に知恵だけでなく、物語や経験、聖書の知識をわたしたちにもたらしめます。

印刷物の重要性

印刷物の力を考慮することは非常に重要です。実際のところ、神の諸原則を記録するという行為は、ごく当初から開始されました。わたしたちは神ご自身がシナイ山において十戒を石の板に書かれたことを見ます。わたしたちはまた、**多くの版を重ねた最初の本は、聖書であったことを見ます。**

印刷技術が発明されると、記された言葉は、ずっと速いスピードで普及し始めました。15世紀に平面型の印刷が進歩し、18世紀には電報や電話機などの電子メディアが進歩したため、教会は新しい種類に聴衆、すなわち、「オン・デマンド(呼べば直ぐに答える)」とも言える聴衆を認めるようになりました。

文書伝道という書では、**真理で満たされた印刷物は、一部分であっても非常に貴重である**ことがわかります。そして印刷された文書に含まれた現代の真理は一行一行が神聖な宝です。第三天使のメッセージの真理が書かれている書物の破られた一ページが、真理を求めている人に対して、どれほど大きな影響力をもつかを、だれが計り知ることができるでしょうか。「わたしたちが分け与えるすべての本と紙面を喜んで読む人があるということ覚えていよう。全てのページは天からの光であり、道や垣根を照らし、真理の道路に光を降り注ぐ」⁴

他の聴衆

書物や印刷物の他にも、次のような聴衆のかたちがあります。

対面の生の聴衆：ほとんどの伝道は、実際には対面で行われます。イエスは、生の聴衆の前で奉仕されました。初期教会では初期の教会における説教、祈りの時間、福音のための集会、相談、および他のかたちの奉仕の活動は通常、生の聴衆の前で行われました。

放送の聴衆：ラジオとテレビの技術が開発されたことにより、放送の視聴者が登場しました。

オンラインの聴衆：インターネット技術がオンライン・メディアを実現させたことにより、情報を入手するためにインターネットを利用するオンライン聴衆が登場しました。

つながっている聴衆：インターネット上のソーシャル・メディアとモバイル技術が結びつくことにより、つながっている聴衆が現れました。この後者の聴衆、すなわちつながっている聴衆は、わたしたちの物語の主人公であり、以下の読み物の主題です。

伝道のためにソーシャル・メディアを利用すべき

イエスは、わたしたちが全世界へ出て行って、あらゆる国民を弟子とするようにとお命じになりました。そして、わたしたちのデジタルの世界の中でそうするように命じておられます。自分の家を出る必要さえないのです。わたしたちは今、自分の手の中にある機器またはひざの上にある小さいパソコンを通して、世界に伝え、教え始めることができます。世界は変わり、教会には非常に大きな機会があります。

人類の歴史を通じて、教会が偉大な使命を遂行する方法は、技術革新によって促進されてきました。使徒パウロにとっては、それはローマの交通システムでした⁵。宗教改革にとっては、印刷技術でした。今日わたしたちにとっての技術革新は、皆さんの教会のほとんどすべての人が手にしているインターネットの力です。そしてたしかに、あなたの教会の近隣にいるほとんどのすべての男女や子供も手にしています。

この地上、特に北アメリカにおいては、教会に通う人の数が減少しています。多数の出席者がいる教会であっても、地元

の教会では、一人の信者や求道者が教会で過ごす時間は、毎週1～3時間程度です。それでいながら、あなたの会衆や知人の多くの人々は、起きている間、非常に多くの時間をますますインターネットに費やしています。

デジタルの世界に住む

わたしたちが「デジタルの世界」と言うとき、ほとんど全世界がデジタル技術によってつながるということを強調しています。アドウィークという出版物によると、人々の関心は、テレビから携帯端末やソーシャル・メディアに移っています。人々は、他のいかなる活動よりも多くの時間をオンラインにつながっています。これが、わたしたちの文化がその生涯を送っている場所なのです。そして、**これが人生を変えるイエス・キリストの福音の存在する機会を提供する新しい開拓地なのです。**

グローバル・ウェブ・インデックスのジェイソン・マンダーという研究者が発表した印刷物によると、**人々がパソコン、ノートパソコン、携帯端末、タブレットを通して日々、費やす時間は、2012年は5.5時間であったのが、2016年においては6.5時間になっています。**このオンラインに携わらせる主要な促進力の一つは、ソーシャル・ネットワークです。マンダー氏の研究結果によると、平均的な人は、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム等のソーシャル・ネットワークにおいて毎日、2時間程度費やしており、その数は、年々増えています。

以下の統計結果は、教会の成長にとってソーシャル・メディアが大変、重要であることを示しているが、ソーシャル・メディアをうまく活用できている教会はほとんどありません。あなたがソーシャル・メディアによる戦略をたてる際に助けとなる重要な鍵を以下で説明します。

バルマ・グループによる研究結果によると、**2017年においては、聖書を読む人々のうち過半数は、聖句にアクセスするのに、インターネット（55%）またはスマートフォン（53%）を用いています – この数字は、2011年における数字（それぞれ、37%、18%）よりも非常に増えています。**

⁶ 人々は、日々、礼拝をするにあたり、インターネットとソーシャル・メディアを利用しており、その傾向は益々強くなっています。そのような事実を利用して、積極的にソーシャル・メディアを活

用すべき必要があります。なぜなら、そこにわたしたちの聴衆の大部分がいるからです。

他の研究結果によると、**約70%に及ぶ教会は、教会員やお客様のために、Wi-Fiの環境を提供しています⁷**。もし、教会がWi-Fiの環境を提供しないならば、多くの来客を拒むことになってしまうでしょう。

ノンプロフィット・マーケティング・ガイドという出版物によると、**非営利のかたちで情報を提供するコミュニケーターのうち70%以上は、ソーシャル・メディアが最良のコミュニケーション手段の一つと考えています⁸** 2016年のノンプロフィット・マーケティング・ガイドの報告書によると、非営利通信プロフェッショナルのうち71%は、ソーシャル・メディアが最も重要なコミュニケーション手段の一つと認識しており、この数字は、1位のホームページ（80%）に次いで二番目です。そのため、牧師が自分の教会をうまく市場に出し、自分の教会員の数を多くしたいと考えるのであれば、ソーシャル・メディアはもはや、「持っていたら良いもの」ではなく、必要不可欠な通信手段なのです。

教会のうち、約85%は、フェイスブックを利用している⁹ 重要な点は、教会が利用するソーシャル・メディアのうち、最も有用なものは、フェイスブックということである。もし、教会がフェイスブックを利用していないならば、それを利用することは最優先の課題といえます。フェイスブックは、教会員がコミュニケーションをとる場を提供するだけでなく、新しいアイデアを入手したり、質問をする活発なオンライン通信の場を提供してくれます。

ツイッターやインスタグラムを利用している教会は、15%に過ぎません。スタティスタという出版物によると、2017年末においてインスタグラムのユーザーは8億人以上のユーザーをもっており、ツイッターのユーザーは3.3億人で。そのような莫大な数の聴衆にアクセスすべきです。

約51%の教会においては、最低1人の教会員が、定期的にソーシャル・メディア上に情報を掲載していると主張しています。¹⁰ ソーシャル・メディアを活用するにあたっては、定期的な情報の掲載が極めて重要です。しかし、幸いなことに、

ソーシャル・メディアでの情報の掲載は、非常に簡単であり、ほんの少しのガイダンスを受けるだけで、事実上、だれでも掲載することができます。

教会のうち62%は、教会員以外の人々をつなぐためにソーシャル・ネットワークを利用しており、さらに大きい数字として、73%が教会員をつなぐためにソーシャル・メディアを利用しています。¹¹

ソーシャル・メディアは、外部の共同体にとってライフラインであり、わたしたちの教会を繁栄させ、成長させるためには必須です。

デジタルの世代のところへ行きなさい

「福音活動とは、福音を人々に、特に若い人々（Z世代と呼ばれる人々）に伝える活動です。¹²わたしたちは、彼らにいてほしいと願う場所ではなく、彼らがいる場所へ福音を伝えなくてはなりません。．．．もし、人々がいる場所に福音が届くならば、福音に対する彼らの反応は、新しい場所における教会です」¹³

一年間における状況の変化のスピードは著しいものであり、2019年においても、驚くべき変化を示す統計結果があります。以下は、2019年の統計結果です。

ソーシャル・チャンネル	有効ユーザー数/月
フェイスブック	22億7千万
ツイッター	3億2600万
インスタグラム	10億
リンクedin	2億6千万
Pinterest	2億5千万
スナップチャット	2億5500万
ユーチューブ	19億
レディット	3億3千万
ワッツアップ	15億

ソーシャル・チャンネル	有効ユーザー数/月
フリッカー	9千万
ウィーチャット	10億8千万
ウェイボー	4億4600万
テレグラム	2億
バイバー	2億6千万
メッセージャー	13億

以上の統計結果によると、ソーシャル・メディアは、教会員の間で福音を伝えるために、また推進イベントによって新しいメンバーを引きつけるために極めて重要であることは否めません。

ソーシャル・メディアと教会：良いものと悪いもの

力：広範囲の聴衆にすばやく情報を伝えることができる。

逆の面：あまりに多くの時間を消費し、要点のない気を散らすものになるかもしれない。さらにもっと悪いことには、否定的なこと、のろいの言葉、噂話、中傷、否定的なニュースや悪い知らせを促進する道具になるかもしれない。

なお、ソーシャル・メディアの明白な利点は、否定的な面をしのぎ、福音を広めるさらにすばらしい機会を提供します。これはキリストが社会的に発信されるものとして確立されました。鍵となるのは、課題を知らずにいて、盲目的に出て行かないことです。かえってへびのように賢く、はどのようにすなおになることです。

そのため、この素晴らしい発明品を利用するか、そしてこの素晴らしい技術をもつばらがらぐたの販売でいっぱいにしてしまっているサタンからスポットライトを取り去るかは教会次第です。そうするためには、直ちに計画をたて、調査をし、祈る必要があります。「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である」（箴言16:9）。

もし、わたしたちがデジタル・ネットワークに飛び込むことを選択するならば、わたしたちの教会が良い目的のみのためにソー

シャル・メディアを最大限に利用する方法を身につけることができます。ソーシャル・メディアを教会が最善に活用し、またそれを始め、運営するための情報を提供しているブログ、ホームページ、および企業が多数存在しています。

わたしたちの教会は、インターネットによる伝道活動にかかる費用を負担することができるでしょうか？はい、もし、それが優先事項であれば。

このお方の富から与える

神のみ働きは、速やかに前進しており、もし、神の民が神からの召しに応じるならば、財産を所有している人々は、神のみ働きを完成させるために自発的にその財産を提供するようになります。「神のみ言葉を信じる信仰は、財産を所有させるところへ神の民を置き、都会で真理のメッセージを待ち望んでいる人々のための働きをなし遂げることができるようにする」。¹⁵

(テモテ第一6:17-19参照)。

「わたしたちは、必要不可欠でない物のために金銭を用いるべきではない。神は手に入る一ドル一ドルが福音のメッセージが入るための新しい伝道地を開く働きのために、また山のような困難を減じるために与えられるよう要求しておられる。」¹⁶

わたしたちの財産は、主から預けられた資本です。主がその財産を必要とされるところで召しに答える用意をして、その財産を確保しておくべきである。

結論

ソーシャル・メディアはわたしたちの社会において急速に普及しており、人々が対話をする手段に対して著しい影響を与えています。ソーシャル・メディアは、消え去ってしまう流行ではありません—それは存続するものです。世界の人口の圧倒的多数がオンラインにいます。人生を変えるキリストの偉大なメッセージを伝えるために、この「世界規模の講壇」を利用することは、21世紀の教会にとって必須です—その利用は、早ければ早い方が良いのです。

世における最高の知らせを、これまで以上に多くの人々に伝えるために、わたしたちの手中にあるこの驚くべき新たな道具を用いるために創造性と大胆さをもって出て行きましょう。イエスのように、わたしたちも国際的になりましょう。人々がどこにいてもそこにわたしたちもいるようにしましょう。み言葉はデジタル化され、それに合わせて宿っています。「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」、「神には、なんでもでき

ないことはありません。」(マタイ19:26; ルカ 1:37)。

参照:

1. 各時代の希望上巻178
2. ウィキペディア
3. 教会への証5巻11
4. 文書伝道151
5. アウグスティヌス皇帝のパックス・ロマーナ（ローマの平和）のゆえに、パウロがローマの世界へ旅したときには安全な状態が行き渡っていた。ストア哲学者エピクテトゥス（西暦135死去）は次のように宣言した。「戦争も戦いも大きな強盗も海賊もなく、全時間、旅行することができ、東から西まで航海した」。
6. バルナ・グループ（リサーチ会社であり、1984年以来、イサッカー・カンパニー傘下にて）神のみ言葉もまたインターネット上にいるすべての人の手に入る。そしてオンライン聖書は、聖書を読むことが禁じられている国々の人々によって読まれている。
7. 生活様式調査（ライフ・ウェル・リサーチ）
8. 非営利マーケティング・ガイドには、非営利コミュニケーション・トレンド調査をとる1000を超える非営利プロフェッショナルからの回答からなっている
9. 生活様式調査（ライフ・ウェル・リサーチ）
10. バズプラント、クリスチャン中心のデジタル広告代理店
11. ファクト・アンド・トレンド。クリスチャン指導者に関連した情報、実践的伝道思想、聖書文献を1957年1月以来提供してきた
12. Z世代: 1995– 2010の間に生まれた人々（あるいは、1998– 2016年）。ほとんどの新世紀世代（Y世代、およそ1980年– 1994年の間に生まれた世代）は、インターネットの到来を記憶している。また同様に、2000年初期にスマートフォンが経験した様々な変化を記憶している。
13. 再び発見されたキリスト教 ヴィンセント・ドノヴァン著（1960年代から1970年代にタンザニアのマサイ族の人々に伝えた伝道者）
14. サタティスタ：22,500以上もの情報源からの統計や研究のポータル
15. 教会への証9巻273
16. 原稿リリース10巻216, 217

時は来た

地とそのすべての民はうめく
苦しみが支配し、暗いからだ
それでなお、大いなる光を持っているわれらは語
らない
吠えないおしの犬のように

しかし、語るべき時に語らないこと、
それはたしかに犯罪である
世界はたしかに真理を必要としている
そしてわれらは今こそその時であることを知っ
ている

彼らが持っているのは、夢にすぎないからである
大騒ぎ、働き、そして動揺させる恐怖
それでなおキリストはすべての人が見るために
来られる、
もっとも暗い夜の時のあいだに

われらは世に語らずにいてはならない
神はわれら一人びとりに役割を与えて下さった
傍観する言い訳はない
神聖な目的が急を要しているときに！

困難は山頂のようにすがたをあらわす
到達できないかのように見えるかもしれない
しかし、われらは自分たちの王に信頼するよう命
じられている
そして前進するのだ、時をあがなって

われらが各自神に祈るとき
どのように賜物を用いるべきか知恵を求めて
悲惨と苦悩を短くするために—
そのとき、キリストの再臨は非常に早いであろ
う！

われらの心の奥深く、今が時であることを知って
いる
終わりの時であることを知っている
御霊はすべての人の上に降り注がれる
祝福された最後の雨を請い求める人々に！

疲労がわれらを多めに誘惑しても
なおわれらが神ご自身の光を見るとき
上からの栄光を一
このお方の素晴らしい力の強さを見る

旅路と苦勞はひるませるほどの長さによって
われらを苦しめるように見えるかもしれない
しかし、キリストご自身のみ手がわれらに延ばさ
れている—
それにつかれば、われらはこのお方の力を得る

あなたが得る喜びを、ただ考えてみなさい
天であなたが会った人々と会うときのことを！
あなたが真理をわかちあった人々を
あなたはそれらの時を決して後悔することはない！

わたしたちの日がついに終わる時まで
そしてこのお方の美しい解放はまもなくである
このお方の十字架はわれらを高く掲げてきた
そしてわれらにとこしえの平安を与えた！

だから、今われらは神の驚くべき恵みの働きを、
ほんの少し垣間見るだけであるが、
しかし、ああ、喜びが、キリストの来られる時に
そしてわれらがこのお方と顔と顔を合わせてま
みえることができるときに！

—バーバラ・モントローズ